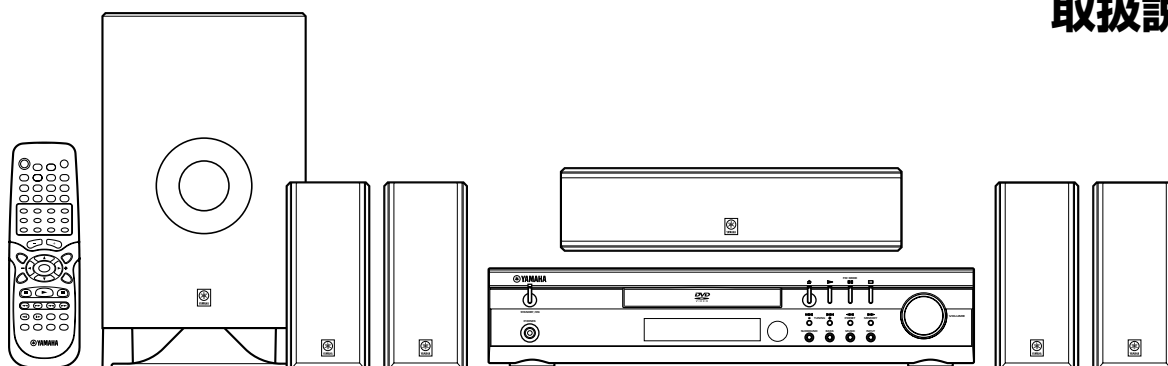


DVDホームシアターサウンドシステム

DVX-S60

取扱説明書



DVX-S60: DVR-S60 + NX-S60S + NX-S60C + SW-S60

ヤマハDVDホームシアターサウンドシステムDVX-S60をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。
本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に保管してください。

保証書をご確認ください

保証書に販売店名、購入日などが記入されておりませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがあります。

安全上のご注意(安全に正しくお使いいただくために)

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例



気をつけなければならない内容を表しています。
たとえば△は「感電注意」を示しています。



してはいけない行為を表しています。
たとえば⊘は「分解禁止」を示しています。



必ずしなければならない行為を表しています。
たとえば●は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なおいや音がする。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

プラグを抜く

そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。



水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水滴の混入により火災や感電の原因となります。



接触禁止

雷がなりはじめたらアンテナや電源プラグには触れない。

感電の原因となります。



分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因となります。

修理・調整は販売店にご依頼ください。



禁止

放熱のため、本機を設置する際には：

- 布やテーブルクロスをかけない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
- あおむけや横倒しには設置しない。

(少なくともDVR-S60の左右/上/背面各20cm以上離して設置してください。) 本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因となります。



必ず行う

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。



必ず行う

必ずAC(100V 50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。



必ず行う

電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。

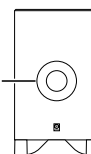


禁止

本機の通風孔やスーパーウーファースのポート(前面開口部)等にもものを入れたり、落としたりしない。

火災や感電の原因となります。

ポート



禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

- 水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
- スーパーウーファースの振動によりものが落下してけがの原因となります。
- 接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。



必ず行う

スピーカーケーブルは必ず壁等に固定する。

ケーブルに足や手を引っかけるとスピーカーが転落・落下し、故障したり、けがの原因となります。



必ず行う

取付け後は必ず安全性を確認する。

また、定期的に落下の可能性がないか安全点検を実施してください。
取付け箇所、取付け方法の不備による事故等の責任は、一切負いかねますのでご了承ください。

⚠️ 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。



禁止

直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。



必ず行う

電源を入れる前や再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て聴力障害等の原因となることがあります。



プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因となることがあります。



接触禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。



禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。



プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続をはずす。

- 接続機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
- コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。



禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。

聴力障害の原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



必ず行う

電池は極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

指定以外の電池は使用しない。また種類の異なる電池や新しい電池と古い電池をいっしょに混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。



プラグを抜く

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。

感電の原因となることがあります。



注意

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

それらの製品とはできるだけ離して設置してください。



必ず行う

電源プラグはコンセントに根もとまで確実に差し込む。

差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。



禁止

電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱・火災の原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



禁止

スーパーウーファースのポート(前面開口部)には手を入れない。

感電やけがの原因となることがあります。



禁止

持ち運ぶときにはスーパーウーファースのポート(前面開口部)に手をかけない。

ポートがはずれたり、本機を落としたりして、けがの原因となることがあります。



禁止

スーパーウーファースのポート(前面開口部)のそばには割れやすいものなどを置かない。

ポートからの空気圧により倒れたり落ちたりして、けがの原因となることがあります。



注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れたまましばらく放置してください。



禁止

薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。



注意

フロント及びリアスピーカーを設置する際は、以下のことに注意する。

- 壁に取り付ける場合、くぎなどの抜けやすいものは絶対に使用しないでください。
- 薄いベニヤ板の壁や柔らかい壁には取り付けしないでください。
- 壁や天井に取り付ける場合、必ず指定されたスピーカーブラケットを使用してください。正しい取付け方法をしないと、スピーカーが落下して、けがの原因となることがあります。



必ず行う

センタースピーカーを設置する際には、付属の固定テープを使用して確実に固定する。

固定テープを貼る場所のほこりやよごれを取り除いてください。また、固定テープの粘着面に触れないでください。粘着力の低下により、スピーカーが落ちて、けがの原因となることがあります。



禁止

センタースピーカーを設置する際には、スピーカーの底面積より狭い場所や傾斜のある場所には設置しない。

スピーカーが落ちて、けがの原因となることがあります。



必ず行う

スピーカーとスピーカーブラケット・スピーカースタンドは必ず指定されたネジを使用して固定する。

スピーカーが落ちたりすると、けがの原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



禁止

本機に乗ったり、ぶら下がったり、寄りかかったりしない。

転倒したり破損したりして、けがの原因となることがあります。



注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因となることがあります。



必ず行う

屋外アンテナ工事には、技術と経験が必要です。販売店にご依頼ください。



必ず行う

開梱や持ち運びは必ず2人以上で行う。

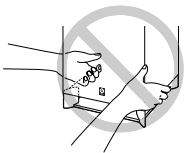
重いので、けがの原因となることがあります。



注意

ディスクトレイに指を入れ、挟まれないように注意する。

閉めるときに挟まれて、けがの原因になることがあります。



本機を持ち運ぶときは、開口部(左図参照)に手を入れないでください。


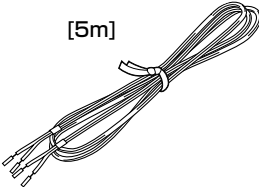
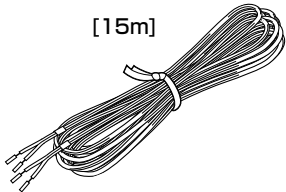
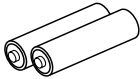
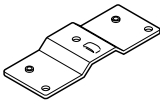



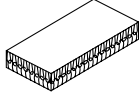
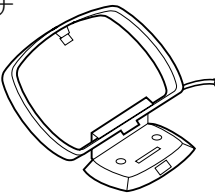
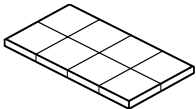
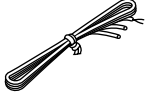
スピーカークニットに手がかかると破損する恐れがあります。

※工場出荷時には、スーパーウーファーの下部に注意シールが付いていますので、ご使用の際にはこのシールを取り外してください。


■ 本書の記載について

- 本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。
- 本取扱説明書は製品開発に先がけ印刷されており、その後、操作性の向上、その他の理由により、製品仕様の一部が変更となることがあります。その場合は製品自体の仕様が優先されます。
- 説明の便宜上、文中のイラストや名称等が実際の製品や梱包箱等と異なる場合があります。

付属品を確認する

DVR-S60	NX-SW60 (NX-S60S x 4, NX-S60C, SW-S60)
<ul style="list-style-type: none"> ● リモコン 	<ul style="list-style-type: none"> ● スピーカーケーブル (フロント/センター/スーパーウーファー用: 5m (4本)、リア用: 15m (2本))  
<ul style="list-style-type: none"> ● 単3電池 	<ul style="list-style-type: none"> ● 取付金具 (フロント/リア用: 4個) 
<ul style="list-style-type: none"> ● ステレオピンケーブル 	<ul style="list-style-type: none"> ● ネジ (フロント/リア用: 4個) 
<ul style="list-style-type: none"> ● ビデオ用ピンケーブル 	<ul style="list-style-type: none"> ● 固定テープ (センター用: 2個) 
<ul style="list-style-type: none"> ● AMループアンテナ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 滑止パッド (フロント/リア用: 2セット (16個)) 
<ul style="list-style-type: none"> ● FM簡易アンテナ 	



ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーの商標です。



DTSおよびDTSデジタルサラウンドはデジタルシアターシステムの登録商標です。

ディスクを無断で複製、放送、公開演奏、レンタルすることは法律により禁じられています。

本製品は、著作権保護技術を採用しており、マクロビジョン社及びその他の著作権者が保有する米国特許及びその他の知的財産権によって保護されています。

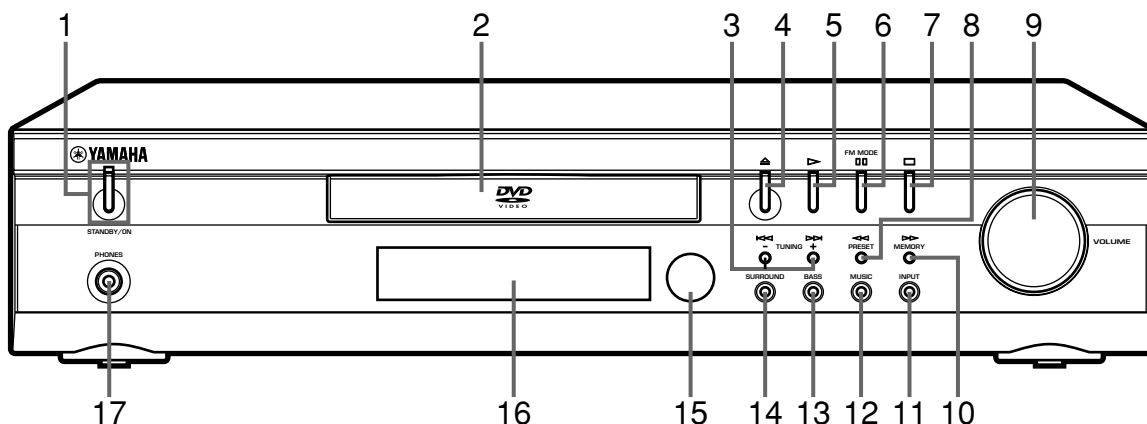
この著作権保護技術の使用は、マクロビジョン社の許可が必要で、またマクロビジョン社の特別な許可がない限り家庭用及びその他の一部の鑑賞用の使用に制限されています。分解したり、改造することも禁じられています。

目次

各部の名称	2	いろいろな再生を楽しむ	18
フロントパネル	2	DVDメニュー [DVD] を選択する	18
ディスプレイ	2	タイトルメニュー [DVD] を選択する	18
リモコン	3	リターンキー [ビデオCD]	18
各部の名称	3	チャプター (トラック) スキップする	18
リモコンに電池を入れる	4	タイトルをサーチする [DVD]	18
リモコンの使用について	4	チャプターをサーチする [DVD]	18
スピーカーを準備する	5	トラックをサーチする [ビデオCD] [CD]	18
スピーカーの設置場所を決める	5	タイムサーチする	18
センタースピーカーを設置する	5	早送り、早戻しする	18
フロント及びリアスピーカーを設置する	6	スロー再生する	18
接続のしかた	7	静止 (一時停止) する	18
スピーカーを接続する	7	コマ送りする [DVD] [ビデオCD]	19
アンテナを接続する	8	画像を拡大・縮小する [DVD] [ビデオCD]	19
テレビを接続する	8	マルチアングル [DVD]	19
その他の接続例	9	アングルリプレイ [DVD]	19
テレビ (モニター) をSビデオ端子に接続する	9	繰り返し再生する	19
テレビ (モニター) をコンポーネントビデオ端子に接続する	9	お好みの順に再生する [ビデオCD] [CD]	19
テレビ (モニター) をD端子に接続する	9	字幕言語を切り替える [DVD]	20
ビデオ機器を接続する	10	音声言語を切り替える [DVD]	20
プログレッシブ映像再生機能付き		音声チャンネルを変更する [ビデオCD]	20
テレビ (モニター) を接続する	11	画面表示を切り替える	20
ヘッドホンに接続する	11	MP3 CDを操作する	21
基本操作	12	MP3 CDについて	21
電源のオン/オフ	12	MP3 CDを再生する	21
ダイレクトスタート機能	12	言語番号一覧表	22
ソースを選択する	12	ビデオ視聴する	23
音量 (ボリューム) を調整する	12	FM/AM放送を聴く	23
一時的に音声を消す (リモコンを使用する)	12	オート/マニュアル選局	23
低音を調整する	12	放送局を登録する (プリセット)	23
サウンドモードを選択する	12	登録した放送局を選んで聴く (プリセット選局)	23
時計をセットする (リモコンを使用する)	12	FMステレオ放送を受信する	23
音場プログラムを選ぶ	13	タイマーを使って再生する (リモコンを使用する)	24
ドルビープロロジックモードを選択する	13	タイマーの使い方	24
ディスクについて	14	スリープタイマーを使用する	24
ディスクを再生する	15	故障かな?と思ったら	25
準備	15	主な仕様	29
再生する	15	ヤマハホットラインサービスネットワーク	30
再生を止める	15		
初期設定を変更する	16		
設定の手順	16		
言語	16		
画面	16		
スピーカー	17		
視聴制限	17		

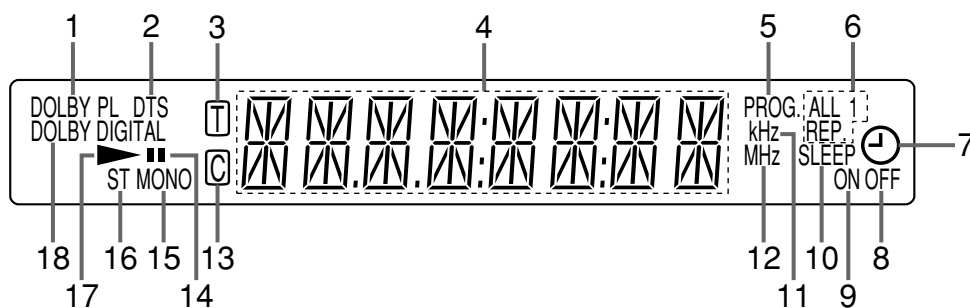
各部の名称

フロントパネル



- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. STANDBY/ONスイッチ、スタンバイインジケータ 2. ディスクトレイ 3. ◀◀ (スキップ) / TUNING - キー、▶▶ (スキップ) / TUNING + キー 4. ▲ (ディスク開閉) キー 5. ▶ (再生) キー 6. (FMモード) キー (23ページ) / (一時停止) キー 7. ■ (ストップ) キー 8. ◀◀ (早戻し) / PRESET キー 9. 音量調整 (VOLUME) ツマミ | <ol style="list-style-type: none"> 10. ▶▶ (早送り) / MEMORY キー 11. INPUT キー 12. MUSIC キー (12ページ) 13. BASS キー (12ページ) 14. SURROUND キー (13ページ) 15. リモコン受光窓 16. ディスプレイ 17. ヘッドホン (PHONES) ジャック |
|---|--|

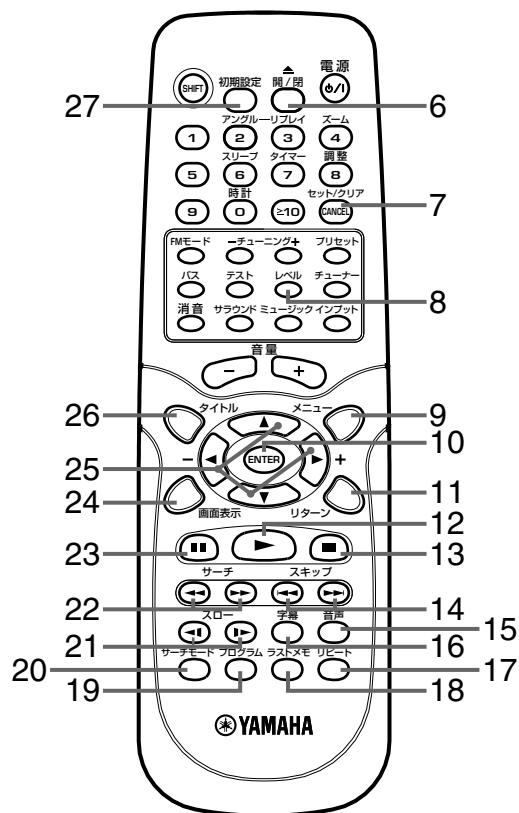
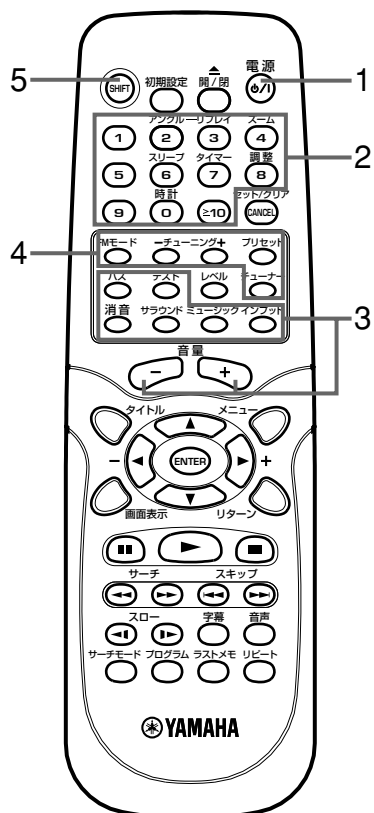
ディスプレイ



- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. ドルビープロロジック表示 (DOLBY PL) 2. DTS表示 (DTS) 3. タイトル/トラック表示 (T) 4. メッセージ/ ナンバー表示 (タイトル、チャプター、トラック、経過時間や各種メッセージ) 5. プログラム表示 (PROG.) 6. リピート表示 (ALL, 1, REP.) (19ページ) 7. タイマー表示 (⌚) (24ページ) 8. タイマーOFF表示 (OFF) (24ページ) 9. タイマーON表示 (ON) (24ページ) | <ol style="list-style-type: none"> 10. SLEEP表示 (SLEEP) (24ページ) 11. kHz表示 (kHz) 12. MHz表示 (MHz) 13. チャプター表示 (C) 14. 一時停止表示 () 15. FMモノ表示 (MONO) (23ページ) 16. FMステレオ表示 (ST) (23ページ) 17. 再生表示 (▶) 18. ドルビーデジタル表示 (DOLBY DIGITAL) |
|--|---|

リモコン

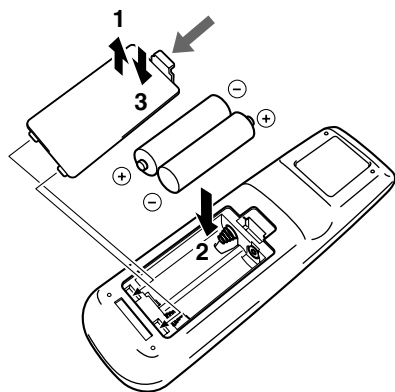
各部の名称



1. 電源 (ON/OFF)
2. 数字/その他機能キー
数字キー (1-9, 0, ≥10)
アングルキー (19ページ)
アングル-リプレイキー (19ページ)
ズームキー (19ページ)
スリープキー (24ページ)
タイマーキー (24ページ)
調整キー (12ページ)
時計キー (12ページ)
3. アンブコントロールキー
インプットキー
テストキー (13ページ)
サラウンドキー (13ページ)
バスキー (12ページ)
ミュージックキー (12ページ)
消音キー (12ページ)
音量-/+キー
4. チューナーコントロールキー
チューナー/バンド選択キー (チューナー)
プリセットチューニングキー (プリセット) (23ページ)
チューニング-/+キー (23ページ)
FMモードキー (23ページ)
5. SHIFTキー

6. ▲ (ディスク開閉) キー
7. セット/クリアキー (24ページ)
CANCELキー (18, 19ページ)
8. レベルキー (13ページ)
9. メニューキー (18ページ)
10. ENTERキー
11. リターンキー (18ページ)
12. ▶ (再生) キー
13. ■ (ストップ) キー
14. ◀◀/▶▶スキップキー
15. 音声キー (20ページ)
16. 字幕キー (20ページ)
17. リピートキー (19ページ)
18. ラストメモリー (ラストメモ) キー (15ページ)
19. プログラムキー (19ページ)
20. サーチモードキー (18ページ)
21. スロー (◀|▶) キー (18ページ)
22. サーチ◀◀/▶▶キー
23. || (一時停止) キー
24. 画面表示キー (20ページ)
25. ▲, ▶, ▼, ◀キー
26. タイトルキー (18ページ)
27. 初期設定キー (16ページ)

リモコンに電池を入れる



1. リモコンの裏ぶたのつまみを矢印方向に押しながら、電池カバーを取りはずす。
2. 付属の単3乾電池（2本）を、リモコンの電池ケース内の表示にあわせて、プラス（+）とマイナス（-）の向きを間違えないように、正しく入れる。
3. 裏ぶたを閉じる。

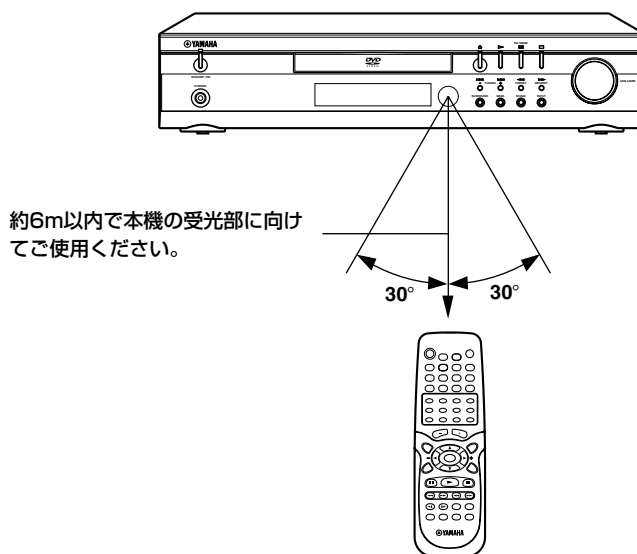
乾電池が消耗したときは、交換してください

乾電池が消耗すると、リモコンを操作できる距離が極端に短くなりました。このような場合は、すべて新しい乾電池に交換してください。

ご注意

- 消耗した乾電池は早めに交換してください。
- 新しい乾電池と、1度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の異なる乾電池（アルカリとマンガンなど）を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。
- 乾電池が液漏れをした場合は、ただちに乾電池を破棄してください。漏れた液にふれたり、衣類などに付着しないようにしてください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。

リモコンの使用について



リモコンの取り扱いについてのご注意

- 水やお茶をこぼしたり、落としたりしないでください。
- 下記のような場所には置かないよう、ご注意ください。
 - ストープのそばや風呂場など、温度・湿度の高いところ。
 - ほこりの多いところ。
 - 極端に寒いところ。

スピーカーを準備する

本機はフロントスピーカー（2本）、センタースピーカー（1本）、リアスピーカー（2本）、スーパーウーファー（1本）の5.1チャンネルスピーカーシステムで最良の音場効果を楽しめるように設計されています。

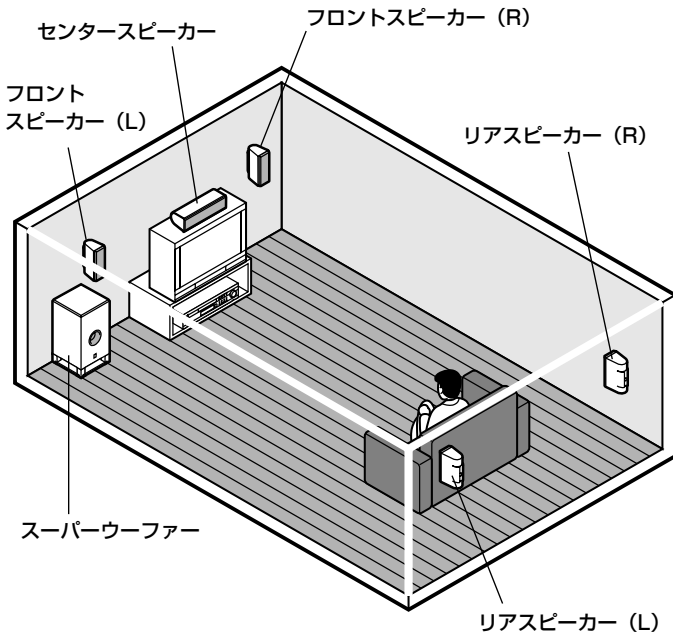
フロントスピーカーはフロントチャンネルの音声（ステレオ音声）と効果音を出し、リアスピーカーはサラウンドと効果音、センタースピーカーは会話やボーカルなど画面中央に定位する音を出します。また、スーパーウーファーは低音を強調するだけでなく、ドルビーデジタルやDTSに含まれるLFE信号を正確に再現することができます。

ご注意

- 本スピーカーシステムでは、フロントスピーカーとリアスピーカーには同じスピーカー(NX-S60S)を使用しています。

スピーカーの設置場所を決める

スピーカーは下図のように配置してください。



フロントスピーカー（L、R）

ステレオ再生と同様に、左右のスピーカーを視聴位置から等距離に設置します。テレビ（モニター）は、左右のスピーカーの中央に設置するようにしてください。

センタースピーカー

フロントスピーカーの中間に設置します。テレビ（モニター）を設置している場合は、テレビ（モニター）とスピーカーの前面を揃え、テレビ（モニター）の上や下など、できるだけテレビ（モニター）に近いところの中央に設置します。

リアスピーカー（L、R）

後方斜め、スピーカーを視聴位置に向けて設置します。床に直接座って聴く場合は、床から約1.5m、椅子に座って聴く場合は、床から約1.8mの高さが適当です。

スーパーウーファー

前方左右どちらかの壁面寄り、壁の反射を防ぐために少し内向きに設置します。低音の聴こえ方は、スーパーウーファーを置く位置と聴く位置の両方に影響されるので、設置する位置を変えてお試しください。

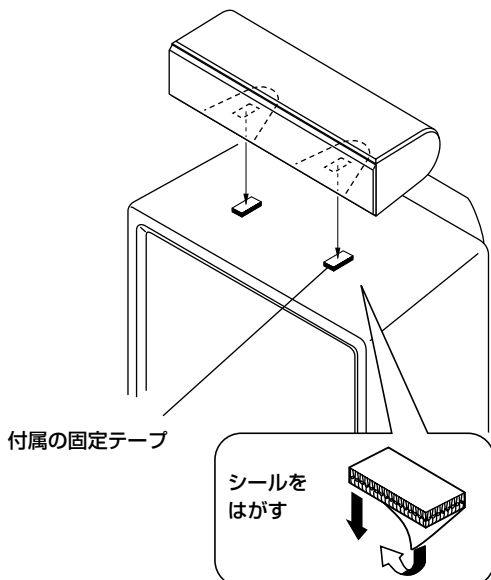
ご注意

- テレビ（モニター）の映像が乱れるときには、スピーカーをテレビ（モニター）から離して設置してください。

センタースピーカーを設置する

センタースピーカーをテレビの上に設置する場合は、必ず上面が水平なテレビをお選びください。もしテレビの上面が水平でない場合は、テレビラック内やテレビ真下の床上など、必ず表面が水平な場所に設置してください。

テレビの上に設置する際は、下図のように付属の固定テープ（2個）をセンタースピーカー底面とテレビ上面に貼り、固定してください。



QD-Bassテクノロジー

本機(SW-S60)は、キャビネット底面のピラミッド型拡散板により水平4方向に低音成分を効率よく放射する“QD-Bassテクノロジー”を採用しています。

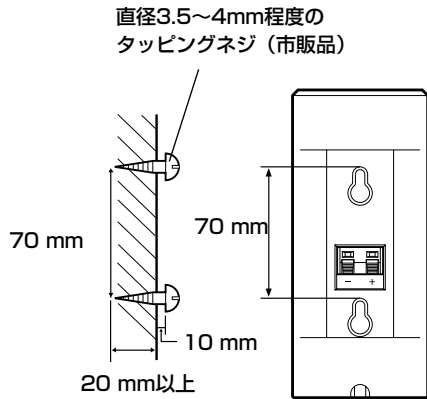
ご注意

- スピーカー底面よりも面積が狭いテレビの上面には設置しないでください。スピーカーが落下するとけがの原因になります。
- 上面が傾いたテレビの上には設置しないでください。スピーカーが落下するとけがの原因になります。
- 固定テープのシールをはがした後は、接着面にはさわらないでください。テープの接着力が弱まり、スピーカー落下の原因になります。
- 固定テープを貼る前に、テレビの上面をきれいに拭いてください。もし表面が汚れていたり、または濡れていたりすると、テープの接着力が弱まり、スピーカー落下の原因になります。

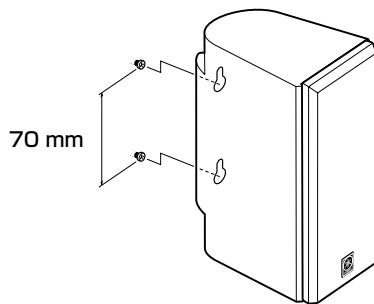
フロント及びリアスピーカーを設置する

スピーカーを直接壁に掛けて使用する場合

1. 2本の木ネジ（市販品：直径3.5～4mm程度）を取り付ける。



2. スピーカー背面の穴を利用して壁に掛ける。



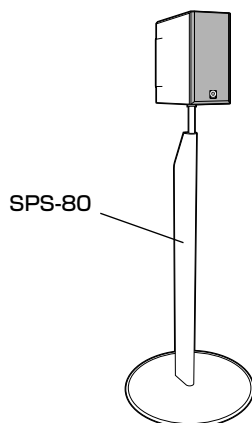
ご注意

（重要なご注意です。必ずお読みください。）

- スピーカーの質量は1台約0.9kgです。ネジを止める場所には、しっかりとした壁または柱を選んでください。モルタルや化粧ベニア板など、はがれやすい材質の壁には取り付けないでください。ネジが抜けてスピーカーが落下するとけがの原因になります。
- 釘などの抜けやすいものは使用しないでください。長時間の使用や振動で抜けてスピーカーが落下するとけがの原因になります。
- スピーカーケーブルをスピーカーと金具の間に挟まないように注意してください。
- スピーカーケーブルを足や手に引っかけて本機を落下させることのないように、ケーブルは必ず固定してください。
- 取り付け後は必ず安全性を確認してください。
取り付け箇所、取り付け方法の不備による事故等の責任は、当社では一切負いかねますのでご了承ください。

別売ヤマハスピーカースタンドSPS-80

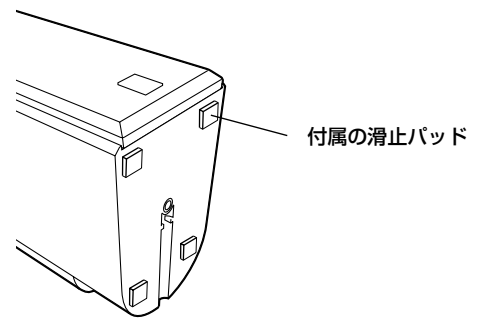
スピーカースタンド(SPS-80)を使用すると、スピーカー(NX-S60S)を床の上に設置することができます。(2台1組)



フロント及びリアスピーカーに滑止パッドを取り付ける

図のようにフロント及びリアスピーカーの底面に付属の滑止パッドを取り付けてください。フロント及びリアスピーカーが滑りにくくなり安定します。

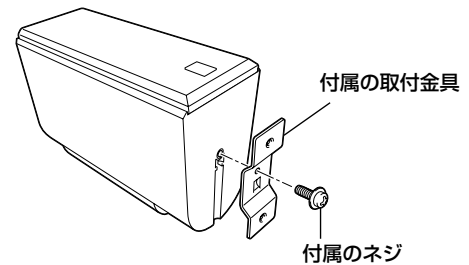
※ 安定した平らな面に設置して使用してください。



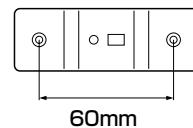
スピーカーブラケット/スピーカースタンドを使用する

1. 付属のネジで、スピーカー底面に付属の取付金具を取り付ける。

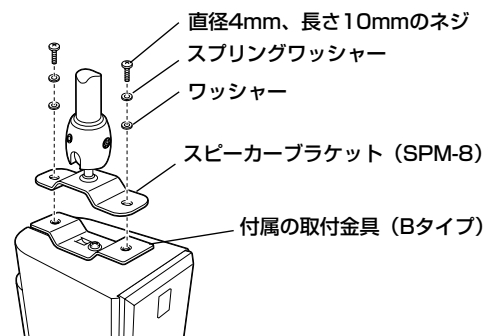
※ 金具の凸部分がスピーカー底部の溝に入るようにしてください。



2. 付属の金具の穴（60mm間隔）を使い、市販のスピーカーブラケットまたはスピーカースタンドをネジで固定する。



※ 直径4mm、長さ10mmのネジとスプリングワッシャーおよびワッシャーをご用意ください。（SPM-8をご使用の場合は、SPM-8に付属のネジを使用してください。）



取り付けの際は、使用するスピーカースタンドやスピーカーブラケットの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

付属のもの以外のスピーカーを使用する場合は、セットメニューでスピーカーの設定を変更してください。（17ページ参照）

接続のしかた

ご注意

- 全ての接続が終わるまでは、本機および本機に接続する機器の電源コードをコンセントに差し込まないでください。
- スタンバイ状態では、電源コードがコンセントから完全に遮断されていません。
- 電源コードをACコンセントに接続する場合には、電源プラグの向き(極性)によって音が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

スピーカーを接続する

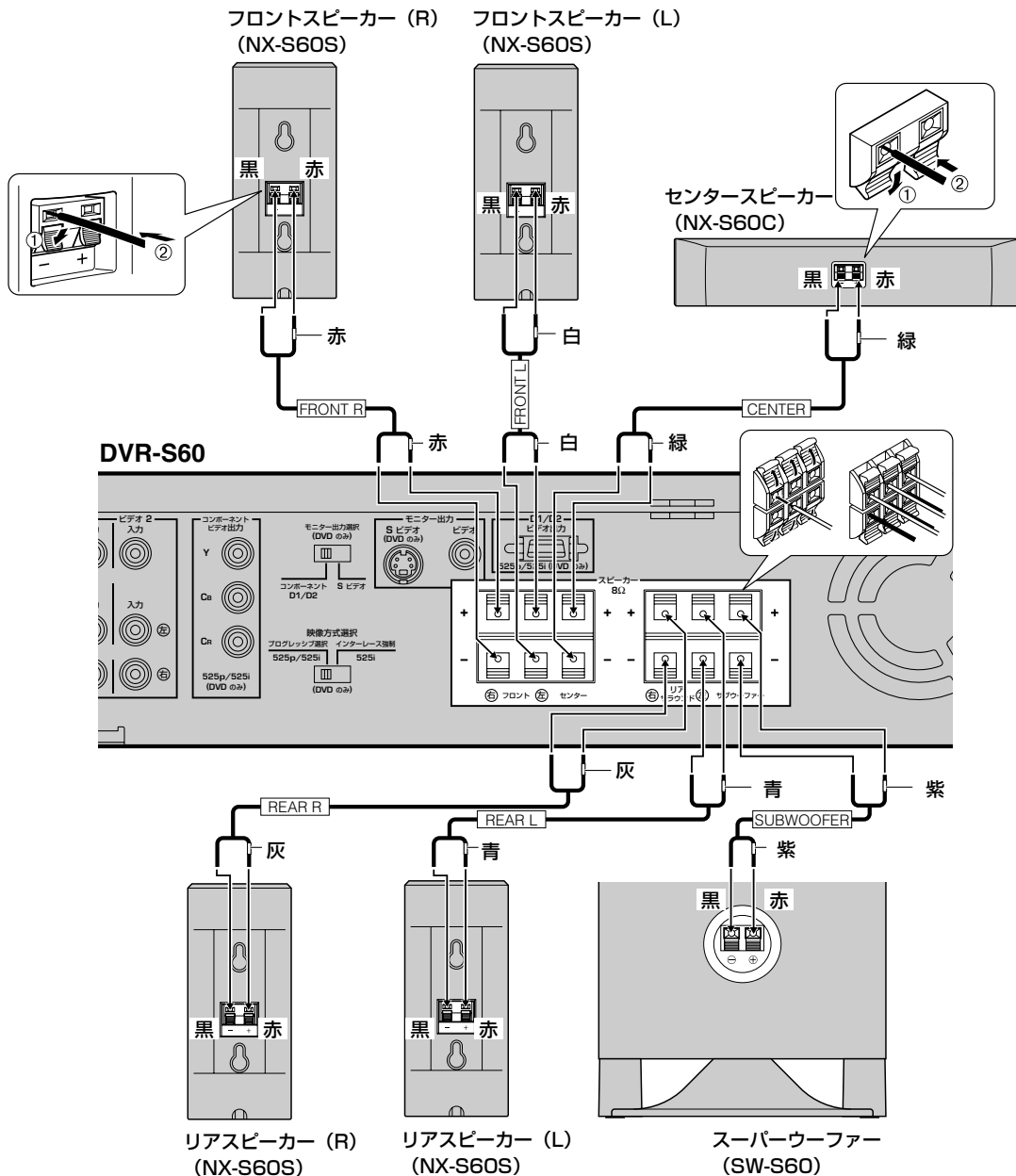
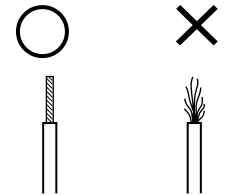
付属のスピーカーケーブルを使って付属のスピーカーとDVDオーディオ/ビデオレシーバーを下記のように接続します。

ケーブルラベル	カラーチューブ	スピーカー
FRONT R	赤	フロントスピーカー (R) (NX-S60S)
FRONT L	白	フロントスピーカー (L) (NX-S60S)
CENTER	緑	センタースピーカー (NX-S60C)
REAR R	灰	リアスピーカー (R) (NX-S60S)
REAR L	青	リアスピーカー (L) (NX-S60S)
SUBWOOFER	紫	スーパーウーファー (SW-S60)

ご注意

- 各スピーカーケーブルには接続先のスピーカーのラベルがついています。ラベルにあわせてスピーカーを接続してください。
- スピーカーケーブル先端のカラーチューブのついてるほうを各スピーカーの+側へ接続してください。極性(+/-)を間違えて接続した場合、不自然な再生音になります。
- スピーカーケーブルの先端には被膜がついていますので、被膜をはがしてからスピーカーを接続してください。

スピーカーケーブル先端の絶縁部分(ビニール)を引き抜き、先をよじっておきます。(よじりながらビニールを引き抜くと芯線がバラバラになりません。)



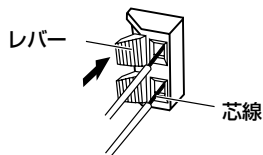
アンテナを接続する

本機にはAMループアンテナ及びFM簡易アンテナが付属しています。電波の受信がとても良い地域では、付属のアンテナをご使用ください。各アンテナを端子に正しく接続してください。

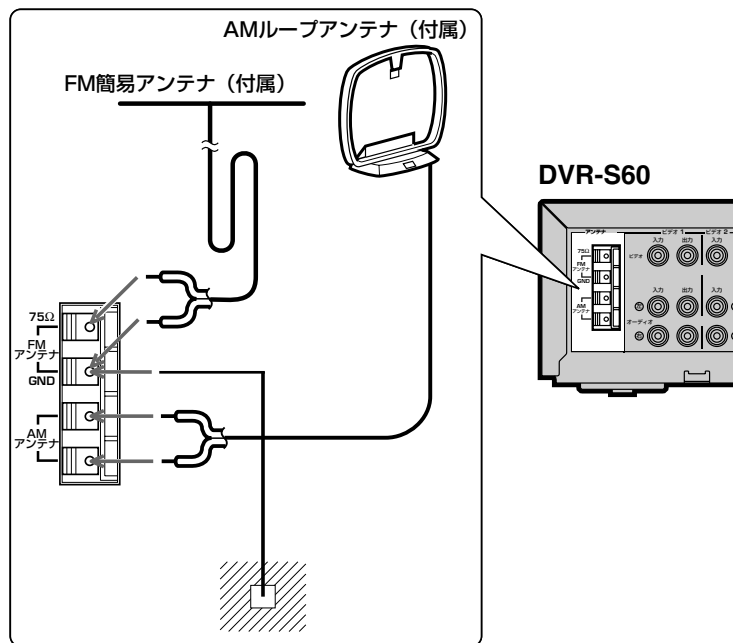
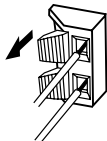
FM簡易アンテナを接続する

付属のFM簡易アンテナをFMアンテナ端子に接続してください。

1. FMアンテナ端子のレバーを押したまま、FM簡易アンテナのコードの芯線を2つの穴に差し込む。コードに極性はありません。



2. レバーから手を離して、コードを固定する。コードを軽く引いて、正しく固定されたかどうか確認してください。



アース (GND端子)

通常の受信では必要ありませんが、雑音防止と安全のために地中アースをとることをお勧めします。アースは市販のアース棒か銅板に、ビニール被覆線を接続し、湿気の多い地中に埋めてください。

FM屋外アンテナを接続するときは

アンテナのケーブルをFMアンテナ端子に接続します。詳しくは、屋外アンテナをお買い求めの販売店にご相談ください。

テレビを接続する

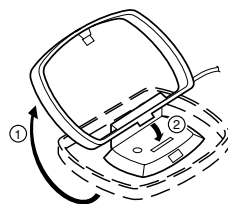
ビデオ端子に接続する：

付属または市販のビデオ用ピンケーブルを使用して、本機のモニター出力ビデオ端子とテレビ（モニター）のビデオ入力端子を接続します。

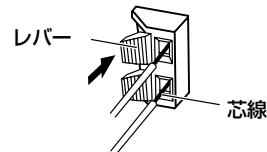
本機にビデオテープレコーダー経由でテレビ(モニター)を接続しないでください。本機のコピーガードシステムにより再生画像が乱れることがあります。

AMループアンテナを接続する

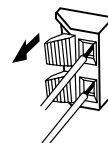
1. アンテナをアンテナスタンドに取り付ける。



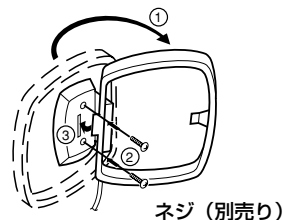
2. AMアンテナ端子のレバーを押したまま、AMループアンテナのコードの芯線を2つの穴に差し込む。コードに極性はありません。



3. レバーから手を離して、コードを固定する。コードを軽く引いて、正しく固定されたかどうか確認してください。



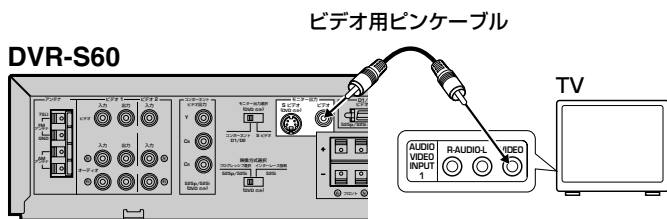
4. アンテナを受信状態が最も良くなる方向に向ける。市販のネジを使用して、アンテナを壁などに取り付けることもできます。



- AMループアンテナをスタンドから取り外して、壁などに取り付けることもできます。
- 受信を良くするためには、屋外アンテナを設置することをお勧めします。詳しくは、最寄りのヤマハ電気音響製品のサービス拠点にお問い合わせください。

ご注意

- AMループアンテナは、本機から離して設置してください。
- 屋外アンテナを接続した場合でも、AMループアンテナは必ず接続してください。



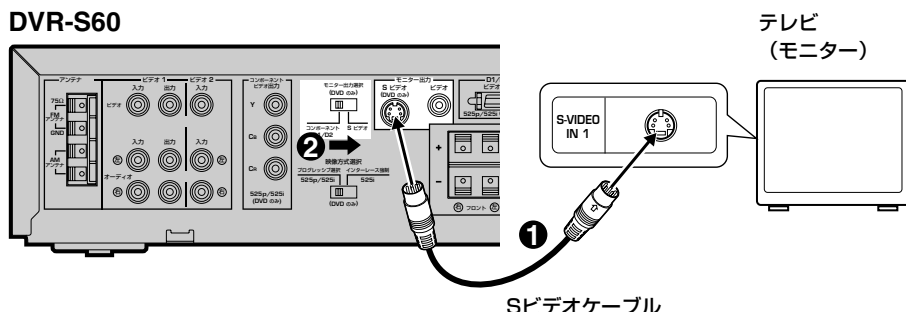
その他の接続例

各接続には、接続する端子に合った、付属または市販の接続ケーブルを使用してください。

テレビ（モニター）をSビデオ端子に接続する

Sビデオ入力端子があるテレビ（モニター）を本機に接続する場合は、以下の手順に従って、本機のSビデオ端子に接続します。ビデオ端子の接続よりも美しい映像を楽しむことができます。（このとき、本機のビデオ端子への接続は必要ありません。）

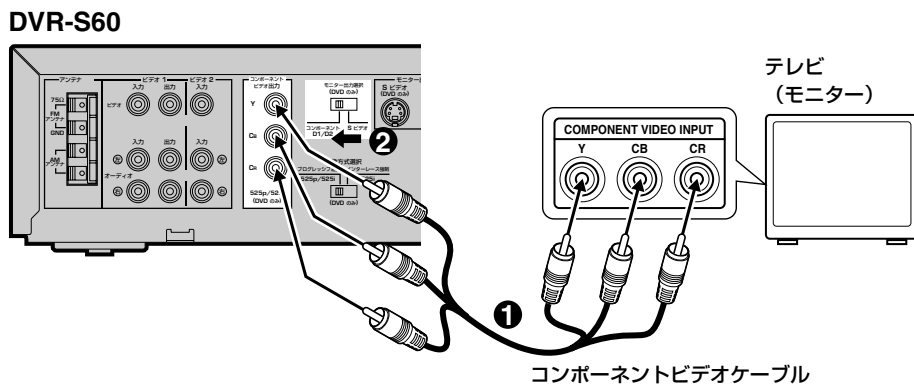
1. Sビデオケーブルを使用して、本機のモニター出力Sビデオ端子とテレビ（モニター）のSビデオ入力端子を接続します。
2. 本機背面のモニター出力選択スイッチを“Sビデオ”側に設定します。



テレビ（モニター）をコンポーネントビデオ端子に接続する

コンポーネントビデオ入力端子があるテレビ（モニター）を本機に接続する場合は、以下の手順に従って、本機のコンポーネントビデオ出力端子に接続します。Sビデオ端子の接続よりも忠実に映像の色を再現できます。（このとき、本機のビデオ端子およびSビデオ端子への接続は必要ありません。）

1. コンポーネントビデオケーブルを使用して、本機のコンポーネントビデオ出力端子とテレビ（モニター）のコンポーネントビデオ入力端子を接続します。
2. 本機背面のモニター出力選択スイッチを“コンポーネントD1/D2”側に設定します。

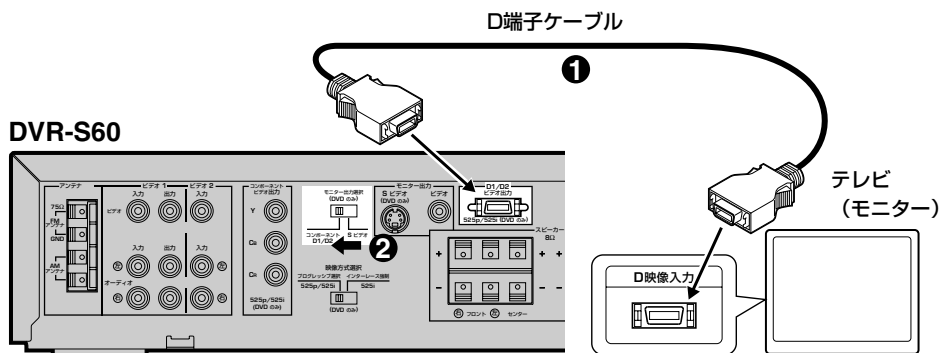


テレビ（モニター）をD端子に接続する

D映像入力端子があるテレビ（モニター）を本機に接続する場合は、以下の手順に従って、本機のD1/D2ビデオ出力端子に接続します。コンポーネント接続と同等の映像を得ることができます。（このとき、本機のビデオ端子、Sビデオ端子およびコンポーネントビデオ端子への接続は必要ありません。）

1. D端子ケーブルを使用して、本機のD1/D2ビデオ出力端子とテレビ（モニター）のD映像入力端子を接続します。
2. 本機背面のモニター出力選択スイッチを“コンポーネントD1/D2”側に設定します。

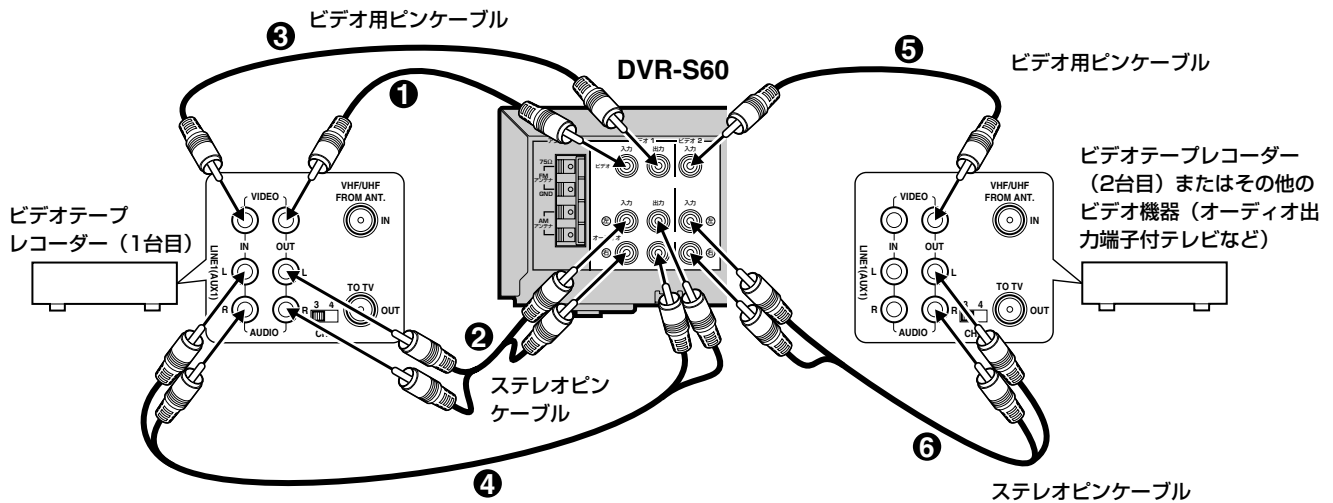
※ 本端子はプログレッシブ映像出力（525p）にも対応しているため、525i信号よりも高密度な映像が楽しめます。（11ページ参照）
ただし、D1映像入力端子だけを持つテレビに接続する場合は、従来方式（インターレース）の映像のみ楽しめます。



ビデオ機器を接続する

ビデオ機器を2台接続することができます。

ビデオテープレコーダーを接続する場合は、①～④に従い接続してください。2台目のビデオテープレコーダーまたはその他のビデオ機器を接続する場合は⑤、⑥に従い接続してください。



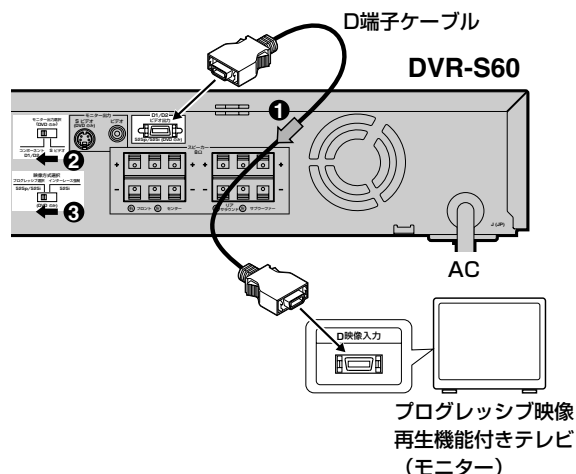
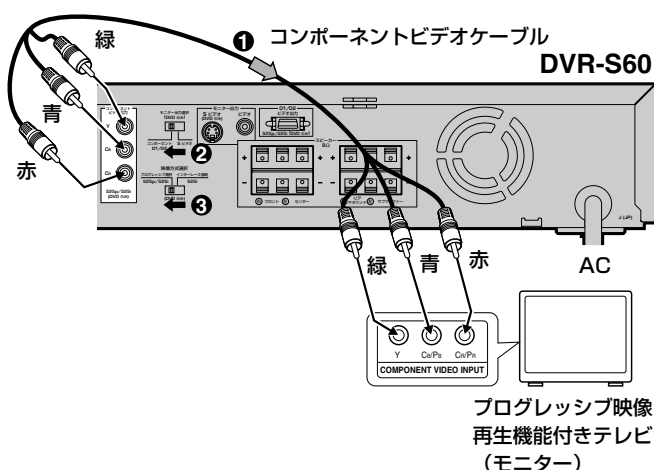
ご注意

- 接続するときは、本機に接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 本機では、ビデオ、Sビデオ、コンポーネントの端子間の信号は独立しています。ビデオ入力端子から入った信号はビデオ出力端子にのみ出力されます。
- 本機のSビデオ端子は、映像に合わせてテレビのワイドモードを切り替える、S1およびS2規格には対応していません。
- 市販のコンポーネントビデオ信号対応機器には、端子名が「Y、PB、PR」以外に、「Y、CB、CR」や「Y、B-Y、R-Y」がありますが、詳細は接続した機器の取扱説明書をご覧ください。
- テレビ(モニター)に接続するときは、以下の端子には接続しないでください。接続すると、画面が乱れたり映らないことがあります。
 - DVDに対応していないハイビジョン方式専用のコンポーネントビデオ入力端子
 - 本機のコピーガードシステムに対応していない525p映像入力端子
- DVDモード時にプログレッシブ出力を選んでいるときには、映像信号はコンポーネントビデオ端子またはD端子からのみ出力されます。(11ページ)
- コンポーネントビデオ端子とD端子は両方接続しないでください。両方接続すると、画面が乱れることがあります。
- 本機背面のモニター出力選択スイッチまたは映像方式選択スイッチの切替えは、必ず電源を入れる前に行ってください。再生中に切替えを行うと、映像が乱れたり、消えたりすることがあります。このような場合は、一度本機の電源を切ってからもう一度入れてください。映像が正常に戻ります。

- 本機の映像出力を直接ビデオテープレコーダーや本機のコピーガードシステムに対応していないAVセレクターなどに接続しないでください。テレビ(モニター)と本機の間にはビデオテープレコーダーなどを接続すると、著作権保護の影響により、再生時に画面が乱れることがあります。
- 本機にビデオテープレコーダーを接続した場合は、本機のモニター出力ビデオ端子を必ずテレビ(モニター)のビデオ端子に接続してください。S端子またはコンポーネントビデオ端子での接続では、ビデオテープレコーダーからの映像をテレビ(モニター)に映すことはできません。

プログレッシブ映像再生機能付きテレビ（モニター）を接続する

プログレッシブ映像再生機能を持ち、コンポーネントビデオ入力またはD2～D4映像入力端子があるテレビ（モニター）を使用してください。



以下の手順に従って設定してください。

1. コンポーネントビデオ入力端子または、D2～D4映像入力端子があるテレビ（モニター）に本機を接続する。
2. 本機のモニター出力選択スイッチを「コンポーネントD1/D2」の位置にする。
3. 映像方式選択スイッチを「プログレッシブ選択」の位置にする。
4. 本機およびテレビの電源を入れる。
5. 画面のセットメニューで「コンポーネント出力：プログレッシブ」を選択する。（16ページ参照）

ご注意

- テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 接続がすべて完了するまでは、本機およびテレビの電源をオフにし、電源コードを抜いた状態にしてください。
- コンポーネントビデオ端子とD端子を同時に接続しないでください。
- 上記の接続をすると、他の映像出力端子からの信号は出なくなります。

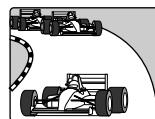
プログレッシブ方式

従来からのインターレース出力方式では1フィールド（1/60秒）でフレーム（コマ）が半分しか作成されませんが、プログレッシブ出力では1フィールド1コマの映像を作り出します。通常のインターレース出力では1秒間（60フィールド）で30コマが作られ、プログレッシブ出力では1秒間に60コマが作り出されるということになります。プログレッシブ出力では高密度でちらつきの少ない高品質な画像が楽しめます。本モデルは525p（プログレッシブ）対応です。

インターレース方式



プログレッシブ方式



ヘッドホンを接続する

ヘッドホンをご使用の際は、市販のヘッドホンをPHONES端子に接続してください。ヘッドホンを接続するとスピーカーは自動的に消音されません。

基本操作

電源のオン/オフ

STANDBY/ONキーを押します。スタンバイインジケータが消灯します。(電源コードを接続後、STANDBY/ONキーを最初に押したとき、音量が自動的に初期レベルにセットされます。)

電源をオフにするには、STANDBY/ONキーをもう一度押します。スタンバイインジケータが点灯します。

- 電源コードをコンセントに差し込むと、本機をリモコンで操作できるようになります。

ダイレクトスタート機能

本機がスタンバイ状態の時に以下のキーを押すと、本機が自動的にオン状態になり選択されているソースが機能します。

- 本機 ▶、▲
- リモコン ▶、チューナー、▲

ソースを選択する

INPUTキーまたはリモコンのインプットキーを押してソースを選択する。

キーを押すごとにソースが切り替わります。ディスプレイ表示が以下のように変わります。

DVD→VIDEO 1→VIDEO 2→FM→AM→...

- 選択ソースが変更されると、ディスクの再生は自動的に停止します。

音量 (ボリューム) を調整する

VOLUMEツマミを回す。(またはリモコンの音量+/-キーを押す。) ディスプレイに音量レベルが表示されます。(VOL 0~39, MAX)

一時的に音声を消す (リモコンを使用する)

消音キーを押す。消音 (ミュート) 中は、本体ディスプレイのMUTE表示が点滅します。前の音量 (ボリューム) に戻すには、もう1度消音キーを押す。

ご注意

音量+/-キーを押したり、本体のVOLUMEツマミを回したりしても消音は解除できません。

低音を調整する

BASSキーまたはリモコンのバスキーを押してお好みの低域効果を選択する。

BASS OFF→BASS ON1→BASS ON2→BASS OFF...

サウンドモードを選択する

MUSICキーまたはリモコンのミュージックキーを押して再生するソースに適したサウンドモードを選択する。

- POP: ポップスなど
- CLASSIC: クラシックなど
- ROCK: ロックなど
- JAZZ: ジャズなど

ご注意

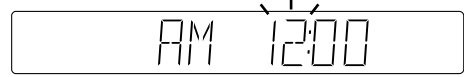
本機またはディスプレイの機能に異常が発生した場合は以下の処置を行ないます。

- 電源コードを抜く。
- 本機のBASSおよびMUSICキーを同時に押しながら、電源コードを差し込む。“RESET” がディスプレイに数秒間表示されます。
- 操作を再開する。

時計をセットする (リモコンを使用する)

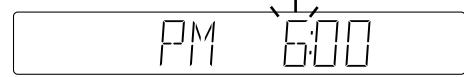
例: “PM6:30” にセットします

- 電源 (⏻) キーを押して電源をオンにする。
- SHIFTキーを押しながら、0 (時計) キーを押す。“AM12:00” が点滅します。
- SHIFTキーを押しながら、8 (調整) キーを押す。

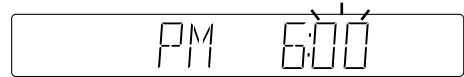


“時” 表示が点滅します。

- チューニング-または+キーを押して“時” をセットする。

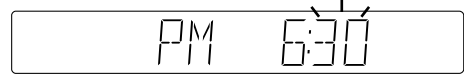


- SHIFTキーを押しながら、8 (調整) キーを押す。



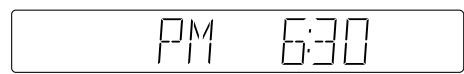
“分” 表示が点滅します。

- チューニング-または+キーを押して“分” をセットする。



- SHIFTキーを押しながら、8 (調整) キーを押す。

時計が作動します。



- 時報が鳴ると同時に、SHIFTキーを押しながら8 (調整) キーを押すと、正確に時刻をセットできます。

操作中に時計を表示するには

SHIFTキーを押しながら、0 (時計) キーを押す。再度両方のキーを押すともとの表示に戻ります。

ご注意

停電により点滅表示になってしまったら、時刻を再セットしてください。

音場プログラムを選ぶ

SURROUNDキーまたはリモコンのサラウンドキーを押して音場プログラムを選択する。

キーを押すごとに音場プログラムは以下のように表示されます。

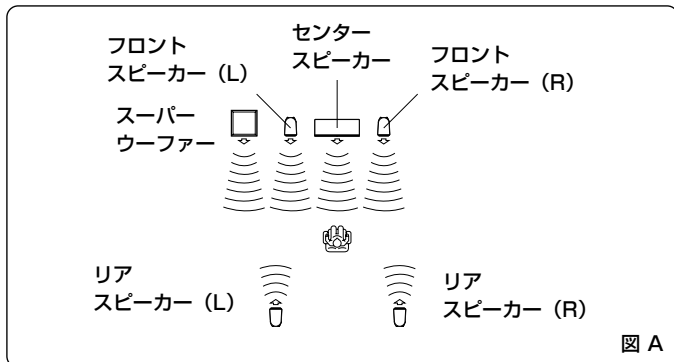
DOLBY PL → DOLBY 3 → [DOLBY D] → [DTS] → THEATER → HALL → SURR OFF → DOLBY PL...

ご注意

使用するディスクによっては、選択できない音場プログラムがあります。

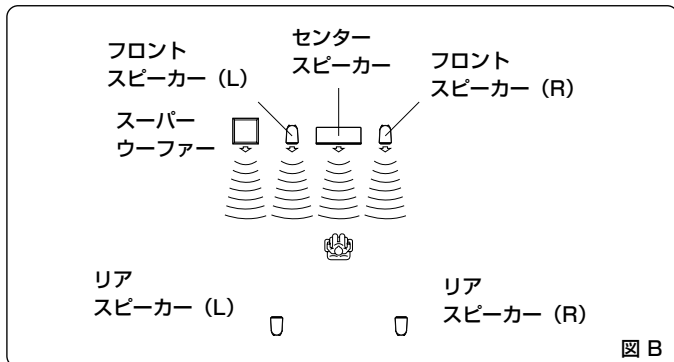
DOLBY PL：ドルビープロロジックモード

ドルビーサラウンド（ビデオテープ、レーザーディスク、DVDなど）がエンコードされたプログラムソースを再生する場合（図A）



DOLBY 3：3チャンネルモード

フロントL、センター、フロントRおよびスーパーウーファーのみ使用（図B）



DOLBY D：ドルビーデジタル5.1チャンネルモード

ドルビーデジタル5.1チャンネルがエンコードされたDVDディスクを再生するときは、「DOLBY D」を選択してください。（図A）

ご注意

ディスクによっては、センタースピーカーやリアスピーカーから音が出ないことがあります。

DTS：DTSデジタルシアターサウンドモード

DTSデジタルシアターサウンドシステム（5.1ch）がエンコードされたDVDディスクを再生するときは、「DTS」を選択してください。（図A）

ご注意

ディスクによっては、センタースピーカーやリアスピーカーから音が出ないことがあります。

THEATER：

映画館のような音響効果

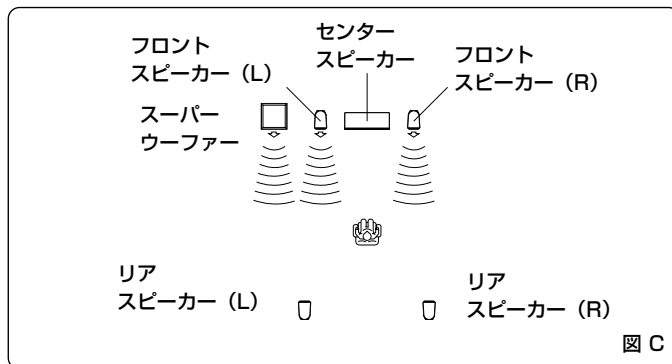
HALL：

コンサートホールのような音響効果

ドルビーサラウンドやDTSがエンコードされていないソースを再生するときに選択してください。（図A）

SURR OFF：通常ステレオサウンド

フロントL、Rおよびスーパーウーファーのみ使用（図C）



ドルビープロロジックモードを選択する

ドルビーサラウンドやDTSがエンコードされたソース（ビデオテープ、レーザーディスク、DVDなど）を再生する場合は、以下の手順に従って各スピーカーの音量バランスを調整してください。

調整は視聴位置でリモコンをご使用ください。

1. 音量+/-キーを押してスピーカーからの音量レベルを調整する。
2. 「DOLBY PL」が表示されるまでサラウンドキーを繰り返し押す。
3. テストキーを押す。「TTONE」が表示され「FL」が点滅します。テストトーンは以下の順に各スピーカーから連続して聞こえます。

TTONE

FL（フロントLスピーカー）

C（センタースピーカー）

FR（フロントRスピーカー）

RS（リアRスピーカー）

LS（リアLスピーカー）

4. テストトーンが同じ大きさと聴こえるように、音量+/-キーを押して調整します。各スピーカーからのテストトーンが同じ大きさに調整できない場合は、音量レベルを微調整する必要があります。以下の手順に従ってください。

ご注意

何も操作を行わない場合は、約1分で元の画面に戻ります。

- 1) テストキーを押してテストトーンを止める。
- 2) サラウンドキーを押して希望するサラウンドモードを選択する。
- 3) レベルキーを押す。「FNLT 0」が表示されます。
- 4) ENTERキーを繰り返し押してスピーカーを選択する。

ディスプレイ表示（該当スピーカー）

FNLT（フロント左スピーカー）

CENT（センタースピーカー）

FNTR（フロント右スピーカー）

SURR（リア右スピーカー）

SURL（リア左スピーカー）

SUBW（スーパーウーファー）

- 5) ▶または◀キーを押して音量レベルを調整する。（FNLT/FNTR：0～10、CENT/SURR/SURL/SUBW：+10～-10）
- 6) ENTERキーを押す。
- 7) 必要なら4) から6) の手順を他のスピーカーでも繰り返す。
- 8) レベルキーを再度押してオフにする。
5. テストキーを押してテストトーンを止める。「TTONE」表示が消えます。
6. 音量+/-キーを押して音量を調整する。

ご注意

- モノラルソース再生の場合は、ドルビーサラウンド効果は働きません。
- FM放送の受信が弱い場合は、ドルビープロロジックをオフにしてください。音質が改善されます。
- サラウンドモードを選択しているときにヘッドフォンを接続した場合は、サラウンドモードは自動的にオフになります。ヘッドフォンが接続されているときは、サラウンドキーは機能しません。
- その他のサラウンドモードについても、上記「ドルビープロロジックモードを選択する」をご覧ください。
- この調整は各ソースごと、別々に設定することができます。




ディスクについて

本機は以下のディスクを再生できます。本機の故障やディスクの破損の原因となりますので、それ以外のディスクは使用しないでください。

ディスクの種類とロゴ		記録内容	ディスクサイズ	最長再生時間
DVDビデオ		オーディオ + ビデオ	12cm	約4時間 (片面) 約8時間 (両面)
			8cm	約80分 (片面) 約160分 (両面)
ビデオCD	  (Version 2.0)	オーディオ + ビデオ	12cm	74分
			8cm	20分
音楽CD		オーディオ	12cm	74分
			8cm	20分

リージョンコードについて

一般のDVDプレイヤーとDVDビデオディスクにはリージョンコード（発売地域ごとに割り当てられた識別番号）が決められています。本機では下表のディスクが再生できます。詳しくはディスクのジャケットなどの記載もご覧ください。

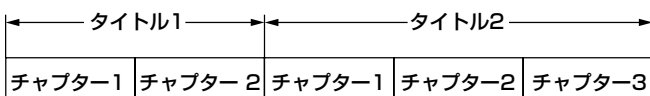
仕向	本機のリージョンコード	再生できるディスクのリージョンコード
日本		  またはリージョンコード2も 含むリージョンのディスク

DVDディスク

DVDディスクのパッケージに記号が表記されています。例：

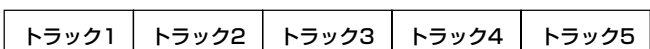
-  音声言語
-  字幕言語
-  マルチアングル
-  TVアスペクト
-  リージョンコード

DVDビデオディスクはタイトルごとに分割され、さらにタイトルはチャプターに分割されています。



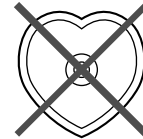
ビデオCD/音楽CD

ビデオCDと音楽CDは、トラック単位に分割されています。



ご注意

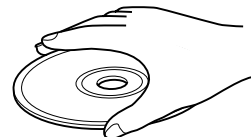
- 本機は以下のディスクを再生できません。DVDオーディオ、フォトCD、CD-ROM、DVD-ROM、DVD-RAM、SVCD、CD-G、CDV、CVD、SACD、Divxビデオディスクなど。(DVD-R、DVD-RW(ビデオモード録画時)、DVD+RWについてはディスクによっては再生できる場合があります。)
- 信用できるメーカーのディスクを使用してください。録音状態やディスクの特性によっては、再生できない場合があります。
- ハート型などの特殊形状のディスクは使用しないでください。



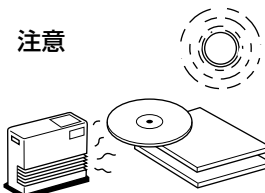
- DVDビデオ、ビデオCDの中には操作や機能が本書の記載と異なる場合があります。これはソフト制作者の意図によるもので、本機の故障ではありません。詳しくはディスクのジャケットなどの記載もご覧ください。
- 本機はビデオ信号方式がPALのディスクの映像を正常に再生できません。

ディスクのお取り扱いについて

- ディスクを持つときには、ディスクの縁や真中の穴を持つようにして、表面に触れないでください。



- 再生時以外はディスクをトレイに入れたままにしないでください。
- ディスクに鉛筆などで字を書かないでください。
- ディスクにテープやシールなどを貼ったり、のりなどをつけないでください。
- 傷つき防止用のプロテクターなどは使わないでください。
- 市販のラベルプリンターで表面に印刷したディスクは使わないでください。
- ディスクを保管する際には、直射日光のあたるところや温度の高いところ、湿気やほこりの多いところは避けてください。



ディスクを再生する

重要!

- ここでは、リモコンを使用したDVDプレーヤーの基本操作を説明します。
- ここで説明していない機能を持つDVDやビデオCDを使用する場合は、別途取扱説明書が必要となります。テレビ(モニター)やディスクの説明書に従ってください。
- 操作中、モニターに⊙が表示されます。このマークは、使用中のディスクでは選択した機能が利用できないことを表します。

準備

- 電源 (⏻) キーを押して本機の電源を入れる。
- テレビの電源を入れて、DVD再生のチャンネルにする。テレビの縦横比に合わせて適切な再生サイズを選択する。(16ページ、「初期設定を変更する」の「画面」をご覧ください。)
- 画面のメニューから言語を選択する。(16ページ、「初期設定を変更する」、「言語」の「オンスクリーン」をご覧ください。)

ご注意

- ディスクトレイの開閉中は、ディスクにさわらないようにしてください。
- ディスクトレイにディスク以外のものを置かないでください。損傷の原因になる恐れがあります。
- ディスクトレイに無理な力をかけないでください。
- ディスクトレイにはディスクを1枚のみ置くことができます。
- ディスクトレイは▲キーを押して開閉してください。ディスクトレイに手を押し付けしないでください。

リモコンの操作キーを押すとテレビの画面に操作が表示されます。数秒後に画面表示は消えます。

すでにディスクがセットされている場合、▶キーを押すだけで、本機が自動的にオンになり再生が始まります。

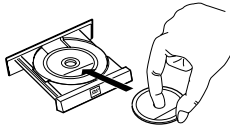
ディスクをセットする

- ▲キーを押す。本機のディスプレイに「OPEN」と表示され、ディスクトレイが開きます。
- ディスクのラベル面を上にし、ディスクトレイに置く。

12cmディスク



8cmディスク



- ▲キーを再度押してディスクトレイを閉める。
 - 自動的に再生されるディスクもあります。

再生する

▶キーを押す。自動的にディスク再生が始まります。

例:

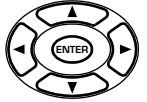


ご注意

- ディスプレイに「NO DISC」と表示された場合は、ディスクをディスクトレイに置いてください。ディスクのラベル側が下に向けた状態で置かれている場合、またはひどく傷がついたディスクが置かれた場合は、「NO DISC」(または「NO PLAY」)と表示されます。この場合は、ディスクを正しく置き直すか交換してください。
- 市販のソフトでは、ディスクにより作成方法が異なる場合があります。そのため、ディスクによっては、本編再生開始時に再生音が途切れることがあります。本機の故障ではありません。

テレビの画面にメニューが表示された場合

▲、▶、▼または◀キー (または番号キー) を押す。次にENTERキーを押して希望するメニューを選択する。選択したメニューの再生が始まります。



リモコン

ご注意

メニューキーを押さないと、ディスクメニューが表示されない場合もあります。詳細についてはディスクの説明書をご覧ください。

再生を止める

- キーを1回押す。再生が停止します。
 - ▶キーを押すと、■キーを押した位置から再生が始まります。

ご注意

再び再生を再開しないディスクもあります。

- キーを2回押す。再生が完全に停止します。
 - ▶キーを押すと、ディスクの始めから再生が始まります。

前回、再生を止めた位置から再生する (ラストメモリー再生) [DVD]

- 再生中に、次回に再生を始めたい位置でラストメモキーを押す。画面に「ラストメモリー」と表示され、自動的に再生が止まります。
- ディスクを取り出すか電源を切る。
- ディスクをセットし、▶キーを押すか、電源を入れる。「ラストメモリー再生しますか?」がモニターに表示されます。
 - ラストメモリー再生しますか?
 - はい
 - いいえ
 - クリアー (ラストメモリー内容消去)
- ▲または▼を押して「はい」を選択する。
- ENTERキーを押す。ラストメモキーを押した位置から再生が始まります。(ディスクによっては、ラストメモキーを再度押す必要がある場合があります。)

ご注意

- 一度にディスク5枚までの再生位置を記憶することができます。
- ラストメモリー再生が正常に機能しないディスクもあります。

ディスクトレイをロックする(本体キーでのみ操作できます)

ディスクトレイをロックしてお子さまによる操作を防止することができます。

ディスクトレイが開いているときに、テレビ画面に「ディスクロックオン」が表示されるまで▲キーを押します。

▲キーは機能しません。

この機能を解除するには、「ディスクロック オフ」が表示されるまで▲キーを押す。

プレイバックコントロール (PBC)

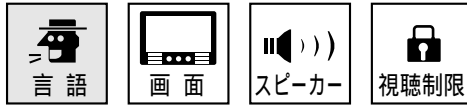
ディスクやジャケットに「プレイバックコントロール付き」などの表示があるビデオCDには、再生をコントロールするための信号が記録されています。PBC対応ビデオCD再生時に表示されるメニュー画面にしたがって、見たい場面や情報、または聴きたい曲などを選ぶことができます。

初期設定を変更する

本機は、お使いのシステムで最適な音声や映像をお楽しみいただけるように、以下のセットメニューで初期設定を変更することができます。

設定の手順

1. ディスクが停止状態のときに初期設定キーを押す。「DVD設定メニュー」がテレビ画面に表示されます。



2. ▲、▶、▼または◀キーを押してメニューを選択し、次にENTERキーを押す。テレビ画面に表示される説明をお読みください。

3. 初期設定キーを押してメニューを終了する。

例：



画面表示: 日本語
音声言語: 日本語、英語、その他、ディスク
字幕言語: 日本語、英語、その他、ディスク
DVDメニュー: 日本語、英語、その他、ディスク
(ディスク：ディスクに記憶されている最優先言語が使用されます。)

ご注意

- ディスクに1言語のみが記憶されている場合、音声言語を変更することはできません。
- DVDビデオディスクを再生するとき、本機は前回選択された字幕言語を表示します(その言語がディスクに記憶されている場合)。
- 「その他」を選択する場合は、言語コードを入力してください。(22ページの「言語番号一覧表」をご覧ください。)



TVタイプ: 4:3 LB, 4:3 PS, 16:9
コンポーネント出力: インターレース、プログレッシブ
プログレッシブモード: オート、ビデオ、フィルム

コンポーネント出力：

従来型のテレビをコンポーネントビデオ出力端子やD出力端子に接続して使用する場合は(9ページ)、「テレビ(モニター)をコンポーネントビデオ端子に接続する」または「テレビ(モニター)をD端子に接続する」をご覧ください。

プログレッシブ再生機能付きテレビを使用してコンポーネントビデオ出力端子やD映像出力端子に接続して使用する場合は(11ページ)、「プログレッシブ機能付きTVを接続する」をご覧ください。

TVタイプ:

テレビ画面のサイズに合わせて適切な設定をしてください。

4:3 LB (レターボックス)：

従来型のテレビが接続されたときに選択してください。

ワイドスクリーンディスクを再生したときは、画面上下に黒い帯が現れます。



4:3 PS (パンスキャン)：

従来型のテレビが接続されたときに選択してください。

ワイドスクリーンディスクを再生する場合、映像はカットされた状態でテレビ(モニター)いっぱいに映し出されます。左右端部がカットされます。

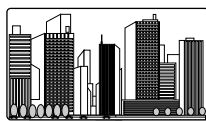
カットオフ



16:9:

ワイドスクリーンテレビが接続されている場合に選択してください。

「FULL」サイズで再生されます。(ワイドスクリーンテレビの設定を「FULL」モードにしてください。)



ご注意

- スクリーンサイズはDVDビデオディスクによって異なる場合があります。
- ワイドスクリーンディスクを再生する場合に黒い帯が出ないように「16:9」を選択するときは、画像がわずかに乱れることがあります。
- ディスクによっては、「4:3 PS」を選択しても黒い帯がモニターに残ることがあります。

ご注意

- モニター出力選択スイッチおよび映像方式選択スイッチが正しい位置にない場合は、「コンポーネントビデオ出力のプログレッシブ選択」を選択することはできません。

- 従来型のテレビを使用する場合に「コンポーネントビデオ出力のプログレッシブ選択」を選択するときは、テレビ(モニター)に乱れが生じます。この場合、本機の電源を切って、映像方式選択スイッチをインターレース強制位置にセットしてください。

プログレッシブモード：

上記で「コンポーネントビデオ出力のプログレッシブ選択」を選択した場合は、「オート」、「ビデオ」または「フィルム」を選択してください。

オート：

再生されるビデオに従って、ビデオ(ビデオソース)またはフィルム(フィルムソース)を自動的に選択します。通常はこのモードを選択します。

ビデオ(ビデオソース)：

主要なDVDビデオソースはビデオソースとフィルムソースで構成されています。ビデオソースまたはドラマ、アニメなどのテレビ番組が録画されているDVDビデオディスクを再生する場合に選択してください。(30フレーム/秒、60フィールド)

フィルム(フィルムソース)：

フィルムソース(劇場用映画など)が録画されているDVDビデオディスクを再生する場合に選択してください。(24フレーム/秒)

ご注意

- 初期設定は「オート」になっています。
- 「オート」で画像のちらつきが発生する場合は、「ビデオ」または「フィルム」を選択してください。



D-レンジ調整：
 フロントスピーカー：
 センタースピーカー
 リアスピーカー
 スーパーウーファー

オン、オフ
 大、小
 大、小
 大、小
 オン、オフ

あらかじめ付属のスピーカーに適した設定をしていますが、お好みにより設定を変更することもできます。以下の手順でスピーカーの設定を行ってください。

D-レンジ調整（ダイナミックレンジ調整）：

機器が出す雑音にうもれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差を制限します。「オフ」を選択するとソフトに収録されている音量差に忠実な再生をします。音がつぶれたりして聴きづらい場合には、「オン」を選択してください。

フロントスピーカー/センタースピーカー/リアスピーカー：

付属のスピーカー（NX-S60S/S60C）を使用する場合は、「小」を選択してください。低音域まで充分再生することができます。NX-S60S/S60Cより大きなスピーカーに換えた場合、「大」を選択してください。

スーパーウーファー

付属のスーパーウーファー（SW-S60）を使用する場合は、「オン」を選択してください。使用しない場合は、「オフ」を選択してください。



暗証番号を設定する

1. 暗証番号を入力してください。
 4桁の数字を入力して
 ENTERを押してください。

数字キーでお好みの数字を入力してください。

2. 確認のため、
 もう一度暗証番号を入力して
 ENTERを押してください。

入力後、設定完了です。

ご注意

間違った番号を入力すると下記のメッセージが画面に表示されます。正しい番号を入力しなおしてください。

無効な暗証番号です。
 4桁の数字を入力して、
 ENTERを押してください。

視聴年齢制限レベルを設定する

1. 設定した暗証番号を入力する。
2. 「視聴年齢制限レベル」を選択する。
3. ◀▶ キーで希望のレベルを設定します。視聴年齢制限レベルは、「オフ、1、2、3、4、5、6、7、8」の順に切り替わります。

暗証番号を変更する

1. 設定した暗証番号を入力する。
2. 「暗証番号の変更」を選択する。

3. 暗証番号の変更
 4桁の数字を入力して
 ENTERを押してください。

数字キーで変更したい数字を入力してください。

4. 確認のため、
 もう一度暗証番号を入力して
 ENTERを押してください。

入力後、変更完了です。

視聴制限

お子さまなどに見せたくないディスクを無断で再生されないように設定できます。本機には、お子さまがレベルを変更できないように暗証番号が設定されています。

視聴制限機能を取り消すまでは、選択したレベルより高いレベルとみなされたDVDディスクを再生することはできません。

例えば、レベル「5」を選択した場合、本機はレベル「6」、「7」または「8」のディスクを再生しません。テレビ画面に情報が表示されます。

暗証番号を忘れた場合

「788444」を入力して現在のパスワードを取り消します。新しいパスワードを入力して、視聴制限レベルを再度設定します。

ご注意

視聴制限設定に対応していないDVDビデオディスクもあります。この機能がご使用のDVDビデオディスクで動かないか確かめください。

テレビ画面に表示される初期設定項目は予告なく変更されることがあります。

いろいろな再生を楽しむ

操作中にテレビ画面に⓪が表示されることがあります。このマークは、使用中のディスクでは選択した機能が利用できないことを表します。

DVDメニュー [DVD] を選択する

1. メニューキーを押す。メニュー画面が表示されます。

ご注意

もう一度メニューキーを押すと再生が始まります。

2. ▲、▶、▼または◀キー（または番号キー）を押して希望のメニューを選択し、ENTERキーを押す。選択したメニューで再生が始まります。

タイトルメニュー [DVD] を選択する

1. タイトルキーを押す。タイトルメニューが表示されます。

ご注意

もう一度タイトルキーを押すと最初にタイトルキーを押したときのシーンから再生が始まります。

2. ▲、▶、▼または◀キー（または番号キー）を押してタイトルを選択し、ENTERキーを押す。選択したタイトルの再生が始まります。

ご注意

DVDメニューまたはタイトルメニュー操作の選択は使用ディスクによって異なる場合があります。タイトルが選択できないディスクもあります。

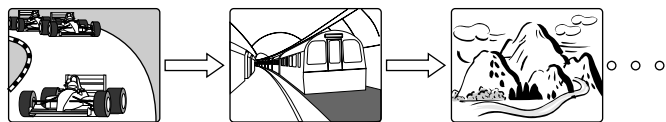
リターンキー [ビデオCD]

通常、再生中にリターンキーを押すと元のメニューに戻ります。

ご注意

この操作はビデオCDの内容により異なります。

チャプター（トラック）スキップする



スキップ（進む）する

再生中に▶▶キーを押すと、次のチャプター（またはトラック）にスキップします。キーを押すごとに次のチャプター（またはトラック）にスキップします。

スキップ（戻る）する

再生中に◀◀キーを押すと、再生中のチャプター（またはトラック）の冒頭に戻ります。すぐにキーを押すと前のチャプター（またはトラック）の冒頭に戻ります。

ご注意

チャプターのスキップはできますが、DVDビデオディスクのタイトルのスキップはできません。

タイトルをサーチする [DVD]

1. 再生中または停止状態で、サーチモードキーを1回押す。テレビ（モニター）に「タイトルサーチ...」と表示されます。
2. 番号キーを押してタイトル番号を入力する。選択したタイトルから再生が始まります。

例：

No.3を選択する場合、3を押す。

No.10を選択する場合、≥10を押し、次に0を押す。

No.24を選択する場合、≥10を2回押し、次に4を押す。

チャプターをサーチする [DVD]

1. 再生中に、サーチモードキーを2回押す。テレビ（モニター）に「チャプターサーチ...」と表示されます。
2. 番号キーを押してチャプター番号を入力する。選択したチャプターから再生が始まります。

トラックをサーチする [ビデオCD] [CD]

再生中または停止状態で番号キーを押す。選択したトラックから再生が始まります。

タイムサーチする

[DVD]

1. 再生中に、サーチモードキーを3回押す。テレビ（モニター）に「タイムサーチ_:_:_」と表示されます。

2. 番号キーを押して時間を入力します。

例：

20分5秒の場合、2、0、0、5の順に押す。

1時間4分35秒の場合、1、0、4、3、5の順に押す。

ご注意

• ≥10キーを使用しないでください。

• キーを押し間違えた場合は、CANCELキーを押してください。

3. ▶▶キーを押す。サーチした時間から再生が始まります。

[ビデオCD] [CD]

1. 再生中に、サーチモードキーを1回押す。テレビ（モニター）に「TIME SEARCH...」と表示されます。

2. 番号キーを押して時間を入力する。

3. ▶▶キーを押す。再生中のトラック上のサーチした時間から再生が始まります。

ご注意

停止状態で1から3の手順を繰り返すと、ディスク上のサーチした時間から再生を始めることができます。

早送り、早戻しする

サーチ▶▶または◀◀キーを繰り返し押して、早送り・早戻し再生を選択する。

[DVD] [ビデオCD]

「FF1▶▶」、「FF2▶▶」、「FF3▶▶」または「FR1◀◀」、「FR2◀◀」、「FR3◀◀」

[CD]

「FF1▶▶」、「FF2▶▶」または「FR1◀◀」、「FR2◀◀」

▶▶キーを押すと通常の再生に戻ります。

スロー再生する

[DVD] [ビデオCD]

スロー▶▶キーまたはスロー◀◀キーを繰り返し押して、スロー（進む）再生・スロー（戻る）再生を選択する。

「SF1▶▶」、「SF2▶▶」、「SF3▶▶」または or 「SR1◀◀」、「SR2◀◀」、「SR3◀◀」

▶▶キーを押すと通常の再生に戻る。

ご注意

• ビデオCDでは後戻りできません。

• DVDビデオおよびビデオCDを早送り、早戻しまたはスロー再生中は音声は消音されます。

静止（一時停止）する

[DVD] [ビデオCD]：静止画面モード、[CD]：一時停止モード
再生中に⏸キーを押す。

▶▶キーを押すと通常の再生を始めます。

ご注意

音声は消音されます。

プレイバックコントロール機能を使ったビデオCDメニュー再生中は、本機のサーチ操作をすることはできません。

コマ送りする [DVD] [ビデオCD]

静止画面モードで■キーを押す。キーを押すごとに画面が1コマずつ送られます。

▶キーを押すと通常の再生を始めます。

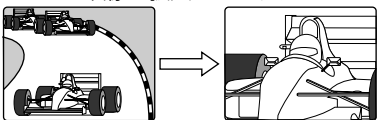
ご注意

- 音声は消音されます。
- コマ送りのみ可能で、コマ戻しはできません。

映像を拡大・縮小する [DVD] [ビデオCD]

1. 再生中に、SHIFTキーを押しながら4 (ズーム) キーを押す。映像の中央部が拡大されます。

押すごとに、さらに映像が拡大されます。



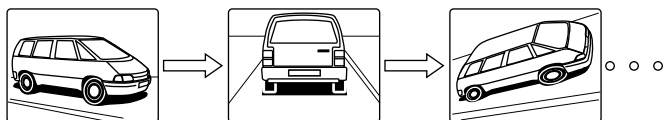
- リターンキーを押すと映像は縮小されます。(拡大、縮小の可変範囲：+15から-15)
- ▲、▶、▼または◀キーを押すと、画面は左右上下に動きます。

2. 通常の画面に戻るには、CANCELキーを押します。

ご注意

映像の拡大・縮小ができないディスクもあります。

マルチアングル [DVD]



DVDディスクには様々なアングルから撮影されたシーンを再生できるものがあります。マルチアングルで録画されているディスクは、ジャケットまたはケースに以下のようなマークが表記されています。

例：



ご注意

ディスクによって、録画されているアングルは異なります。

1. マルチアングルで録画されているディスクを再生する。
2. DVD再生中、マルチアングル機能が表示されたら、SHIFTキーを押しながら、2 (アングルキー) を押し希望のアングルを選択する。

例：



アングルリプレイ [DVD]

マルチアングルのシーンを再生中に、SHIFTキーを押しながら、3 (リプレイ) キーを押す。約10秒前の映像に戻り、次のカメラアングルに切り替わって再生を始めます。(必要ならキーを再度押してください。)

繰り返し再生する

繰り返し再生したいタイトル (またはトラック) を再生 (またはプログラム再生) 中に、リピートキーを押す。キーを押すごとに、リピートモードが以下のように切り替わります。

[DVD]

↺タイトル：再生中のタイトルのリピート

↺オフ：通常の再生モード

[ビデオCD] [CD]

↺1 (1 REP.)：再生中のトラックのリピート

↺All (ALL REP.)：全トラックのリピート

↺Off：通常の再生モード

ご注意

- 繰り返し再生モードが正常に機能しないディスクもあります。
- プレイバックコントロール機能を使ったビデオCDのメニュー再生中は、繰り返し再生ができないことがあります。

お好みの順に再生する [ビデオCD] [CD]

最大32トラックまでお好きな順でお楽しみいただけます。

予約手順

1. 停止状態でプログラムキーを押す。「プログラム」がテレビ (モニター) に表示される。フロントディスプレイ上に「PROG.」が点滅し、「Pr 1」が表示されます。

2. 数字キーを押してトラック番号を入力する。

例：

トラックNo.3を選択する。：3を押す。

トラックNo.10を選択する。：1、0を押す。

トラックNo.24を選択する。：2、4を押す。

ご注意

- 押し間違えた場合は、CANCELキーを押してください。
 - ≥10キーを使用しないでください。
 - メニューを終了するときはプログラムキーを押してください。
3. ENTERキーを押す。選択表示が自動的に次の予約番号に移動します。

例：

プログラム #	トラック	トラック時間
1	0 2	00 : 04 : 57
--	--	--
--	--	--
--	--	--
--	--	--
--	--	--
--	--	--

[00 : 04 : 57]

トータルプログラム時間

4. 上記の手順2から3を繰り返し、別のトラックを選択する。

5. ▶キーを押して再生を開始する。「PROG.」は点灯したままです。予約したトラックが全て再生されると、自動的に停止します。

- 予約内容はメモリーに残ります。

予約を順に取り消す

予約モードで、▲ または▼ キーを押して予約番号を選択し、次にCANCELキーを押す。

全ての予約を取り消す

予約モードで■キーを押す。

予約を変更する

1. 予約モードで、▲または▼を押して予約番号を選択する。

2. 数字キーを押して差し替えるトラック番号を入力する。次にENTERキーを押す。

同じ内容の予約を再度使用する

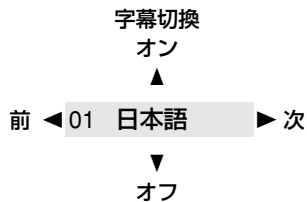
プログラムキーを押して、以前の予約内容をテレビ画面に表示させてから、▶キーを押す。

字幕言語を切り替える [DVD]

複数の字幕言語が記憶されているディスクでのみ機能します。

- 再生中に字幕キーを押す。「字幕切換」が画面に表示されます。
- ▲キーを押して「オン」を選択する。選択されている言語が反転表示します。

例：



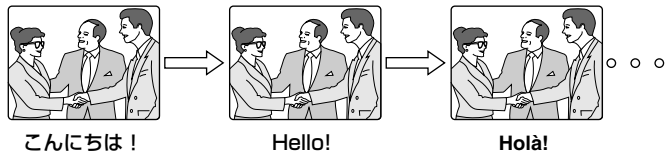
- ▶または◀キーを押して希望する字幕言語を選択し、字幕キーを押す。

ご注意

- 字幕言語が、選択した言語に切り替わらない場合があります。
- キーを押しても希望する言語を選択できない場合は、ご使用のディスクが選択言語に対応していません。
- クローズドキャプションに対応しているディスクを再生する場合は、字幕とクローズドキャプションがテレビ(モニター)上で重なり合うことがあります。この場合は字幕機能を停止してください。
- 電源を再度入れた場合やディスクを交換した場合は、字幕言語を再度選択してください。
- 字幕言語が不要な場合は、「オフ」を選択してください。

音声言語を切り替える [DVD]

複数の音声言語が記憶されているディスクで機能します。



- 再生中に、音声キーを押す。
- 希望する言語がテレビ画面に表示されるまで、音声キーを繰り返し押す。

例：

音声切換 02 英語

ご注意

- キーを押しても希望する言語を選択できない場合は、ご使用のディスクが選択言語に対応していません。
- 希望する言語がディスクに記憶されていない場合は、ディスクに記憶されている言語のみが使用可能です。
- 電源を再度入れた場合やディスクを交換した場合は、言語を再度選択してください。
- 本機は音声信号を切り替えた際に発生する雑音を防止するため、一時的に消音する機能を搭載しております。そのため、複数の音声信号を収録したディスクを再生中に、音声信号を切り替えると音が途切れることがあります。本機の故障ではありません。

音声チャンネルを変更する [ビデオCD]

ビデオCDを再生中に、音声キーを押して音声チャンネルを選択します。

Lモノ→Rモノ→ステレオ→Lモノ...

画面表示を切り替える

画面表示キーを繰り返し押してディスク情報を表示します。(タイトル、チャプター、再生中のタイトルの経過時間、言語など)

例 (DVD)：

- 画面表示キーを押す。

再生中のタイトルの経過時間

DVD	タイトル: 1	◆ タイトル	0:08:51
	チャプター: 4		

▲または▼キーを押して、タイトルまたはチャプター情報を切り替える。

再生中のチャプターの経過時間

DVD	タイトル: 1	◆ チャプター	0:00:16
	チャプター: 4		

- 画面表示キーを押す。

再生中のタイトルの残り時間

DVD	タイトル: 1	◆ タイトル	1:07:17
	チャプター: 4		

▲または▼キーを押して、タイトルまたはチャプター情報を切り替える。

再生中のチャプターの残り時間

DVD	タイトル: 1	◆ チャプター	0:05:37
	チャプター: 4		

- 画面表示キーを押す。

	音声言語	音声属性
DVD	日本語	ドルビーデジタル 2.0ch
	日本語	3/5
	字幕言語	マルチアングル

ご注意

▲または▼キーは、「画面表示」が機能中の作動画面でのみ使用できます。

例 (ビデオCD)：

- 画面表示キーを押す。

再生中のトラックの経過時間

VCD	トラック: 2	◆ トラック	01:02
-----	---------	--------	-------

▲ または▼ を押して、トラックまたはディスク情報を切り替える。

ディスクの経過時間

VCD	トラック: 2	◆ ディスク	04:34
-----	---------	--------	-------

- 画面表示キーを押す。

再生中のトラックの残り時間

VCD	トラック: 2	◆ トラック	00:26
-----	---------	--------	-------

▲ または▼ を押して、トラックまたはディスク情報を切り替える。

ディスクの残り時間

VCD	トラック: 2	◆ ディスク	32:19
-----	---------	--------	-------

ご注意

音楽CDについては、上記のビデオCDの例をご覧ください。

MP3 CDを操作する

本機は、音楽データやMP3ファイルが記録されているCD-R/RWを再生することができます。MP3 CDを再生する前に、以下の内容をお読みください。

MP3 CDについて

MP3 CDの再生について

- 本機は1枚のCDにつき最大255のファイルまたはフォルダーを認識することができます。256以上のファイルまたはフォルダーが記録されているCDは本機ではご使用になれません。
- 本機は1枚のCDにつき最大8つのディレクトリ階層を認識することができます。
- MP3 CDでは、再生時にプログラム通りに再生できない場合があります。
- マルチセッションディスクは最初のセッションのみ再生することができます。
- CDに音声トラックおよびMP3ファイルの両方が記録されている場合は、音声トラックのみが再生されます。
- CDによってはMP3ファイルの読み取りに30秒以上かかる場合があります。

画面表示について

- 一度に最大33文字まで表示することができます。表示可能な文字は以下の通りです。
A～Z（大文字または小文字）、0～9、_（アンダーライン）
- 上記以外の文字はブランク表示となります。

ご注意

- 高音質な音声を得るためMP3を再生するときはサンプリング周波数を44.1kHz、ビットレートを128kbpsにセットすることをお勧めします。
- MP3 CDを録音順に再生するには
 1. アルファベットまたは数字でデータを記録できる機能があるMP3ソフトウェアを使用します。
 2. 各ファイルの頭に2桁または3桁の番号をつけます。
(例：「01」、「02」、「001」、「002」)
 3. サブフォルダーはできるだけ作らないようにします。
- MP3 CDの録音状態によっては再生できないことがあります。

MP3 CDを再生する

1. MP3 CDをディスクトレイにセットする。ルートディレクトリの目次がテレビ（モニター）に表示されます。

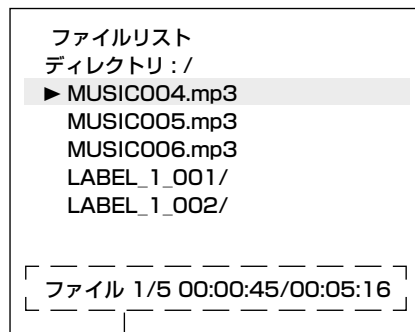
例：（ルートディレクトリ）



ご注意

何も表示されない場合はメニューキーを押してください。

2. ▲ または ▼ を押してファイルを選択する。選択されたファイルがハイライト表示します。
 - 次のディレクトリに進むには、適切なフォルダーを選択して▶キーを押す。選択されたディレクトリの目次がテレビ（モニター）に表示されます。
 - 元のディレクトリに戻るには、◀キーを押す。
 - 8段目の階層まで進むことができます。
3. ENTER（または▶）キーを押すと再生します。ファイルの再生経過時間と総再生時間が画面に表示されます。
例：（第2ディレクトリ）



ファイル情報

ファイルを飛び越す（スキップ）場合の注意

次のファイルにスキップする

再生中に▶▶▶ キーを押すと次のファイルにスキップします。キーを押すごとに、同じディレクトリ内でファイルをスキップします。

前のファイルにスキップする

再生中に◀◀◀ キーを押すと、再生中のファイルの冒頭に戻ります。すぐに再度◀◀◀キーを押すと、前のファイルの冒頭にスキップします。

ご注意

- 拡張子がMP3ではないファイル、およびフォルダーは自動的にスキップされます。
- 画面表示内を上下に移動するには、▲および▼キーを押します。

言語番号一覧表

初期設定メニュー“言語”の音声、字幕、DVDメニュー設定時に“その他”を選択した場合には、下記リストの該当する言語番号を入力してください。

アイスランド	:7383	カンボジア	:7577	タガログ	:8476	ブルターニュ	:6682
アイマラ	:6588	キルギス	:7589	タジク	:8471	ヘブライ	:7387
アイルランド	:7165	ギリシャ	:6976	チェコ	:6783	ベトナム	:8673
アゼルバイジャン	:6590	クルド	:7585	中国語	:9072	ベロルシア(白ロシア)	
アッサム	:6583	クロアチア	:7282	チベット	:6679		:6669
アフアル	:6565	グアラニー	:7178	ティグリニア	:8473	ベンガル(バングラ)	
アフリカーンス	:6570	グジャラト	:7185	テルグ	:8469		:6678
アブハジア	:6566	グリーンランド	:7576	デンマーク	:6865	ベルシャ	:7065
アムハラ	:6577	グルジア	:7565	トウイ	:8487	ポーランド	:8076
アラビア	:6582	ケチュア	:8185	トルクメン	:8475	ポルトガル	:8084
アルバニア	:8381	ゲール(スコットランド)		トルコ	:8482	マオリ	:7773
アルメニア	:7289		:7168	トンガ	:8479	マケドニア	:7775
イタリア	:7384	コーサ	:8872	ドイツ	:6869	マライ(マレー)	:7783
イディッシュ	:7473	コルシカ	:6779	ノル	:7865	馬拉タ	:7782
インターリングア	:7365	サモア	:8377	日本語	:7465	マラヤーラム	:7776
インドネシア	:7378	サンスクリット	:8365	ネパール	:7869	マルタ	:7784
ウェールズ	:6789	ショナ	:8378	ノルウェー	:7879	マダガスカル	:7771
ウォロフ	:8779	シンド	:8368	ハウサ	:7265	モルダビア	:7779
ヴォラビュック	:8679	シンハラ	:8373	ハンガリー	:7285	モンゴル	:7778
ウクライナ	:8575	ジャワ	:7487	バシキール	:6665	ヨルバ	:8979
ウズベク	:8590	スウェーデン	:8386	バスク	:6985	ラオ	:7679
ウルドゥー	:8582	スロバキア	:8375	バシュト	:8083	ラテン	:7665
英語	:6978	スロベニア	:8376	パンジャブ	:8065	ラトビア(レット)	:7686
エストニア	:6984	スワヒリ	:8387	ヒンディー	:7273	リトアニア	:7684
エスペラント	:6979	スンダ	:8385	ビハール	:6672	リンガラ	:7678
オーリヤ	:7982	スペイン	:6983	ビルマ	:7789	ルーマニア	:8279
オランダ	:7876	ズールー	:9085	フィジー	:7074	レトロマンズ	:8277
カザフ	:7575	セルビア	:8382	フィンランド	:7073	ロシア	:8285
カシミール	:7583	セルボクロアチア	:8372	フェロー	:7079		
カタロニア	:6765	ソマリ	:8379	フランス	:7082		
ガリチア	:7176	タイ	:8472	フリジア	:7089		
韓国(朝鮮)語	:7579	タタール	:8484	ブータン	:6890		
カナダ	:7578	タミル	:8465	ブルガリア	:6671		

ご注意

- セットメニューで設定した言語が、ディスクに収録されていない場合は、設定した言語で再生することはできません。

ビデオ視聴する

1. インプットキーを押して、「VIDEO 1」または「VIDEO 2」を選択する。
2. ビデオ機器等の操作は、ビデオ機器等の取扱説明書に従ってください。

FM/AM放送を聴く

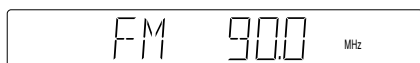
リモコンのチューナーキーを押すと、本機の電源が自動的に入り、前に受信していた放送局が受信されます。

オート/マニュアル選局

1. INPUTキーまたはリモコンのチューナーキーを押してFMまたはAMを選択する。
2. 自動的に選局する。(オート選局)
チューニング+または-キーを約1秒間押すと、自動的に受信可能放送局を探し出し受信します。希望する放送局を受信するまで、くり返しキーを押す。

手動で選局する。(マニュアル選局)

希望する周波数が表示されるまでチューニング+または-キーを押して、周波数を選択する。



放送局を登録する(プリセット)

最大でFM放送局を20局、AM放送局を10局まで登録(プリセット)できます。

自動登録する(オートプリセット)

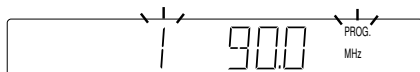
1. インプットキーまたはチューナーキーを押してFMまたはAMを選択する。
2. MEMORYキーを約3秒間押す。「PROG.」が点滅します。オート選局モードになり、オートプリセットが周波数の低い方から始まります。FM20局またはAM10局の登録が終わったとき、または最も高い周波数まで一巡したとき、オートプリセットは終了します。「PROG.」が消え、チャンネル1に登録された放送局が受信されます。
3. もう一方の放送局(FMまたはAM)をプリセットする場合も同じ手順でおこないます。

ご注意

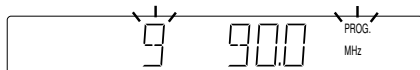
オートプリセットが作動すると、前に登録されている放送局はすべて消えて、新しい放送局が登録されます。

手動で登録する(マニュアルプリセット)

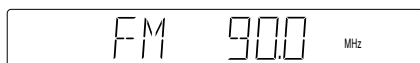
1. 登録(プリセット)したい放送局を選局する。放送局の選局は上記「オート/マニュアル選局」をご覧ください。
2. MEMORYキーを押す。



3. 「PROG.」が点滅中に、PRESETキーを押してプリセットしたいチャンネルを選択する。



4. 「PROG.」が点滅中に、MEMORYキーを押す。
 - 「90.0MHz」のFM放送局をFMチャンネル9にプリセットする場合の例です。



5. 他の放送局を続けて登録するときは、上記の手順を繰り返します。
 - 新しい放送局を登録すると、前に登録されている放送局は消えます。

登録した放送局を選んで聴く(プリセット選局)

1. インプットまたはチューナーキーを押してFMまたはAMを選択する。
2. PRESETキーを押して、登録(プリセット)したチャンネルを選択する。
 - リモコンの数字キーで選択することもできます。
例：0、次に9を押す。

登録した放送局を選局する

1. インプットまたはチューナーキーを押してFMまたはAMを選択する。
2. PRESETキーを約1秒間押す。チャンネル番号が表示されます。プリセットされた放送局が各5秒間、順次受信されます。
 - リモコンのプリセットキーを使用することもできます。
3. 希望する放送局が受信されたら、PRESETキーを再度押して受信を固定する。

FMステレオ放送を受信する

「MONO」が表示されていないことを確認します。「MONO」が表示されている場合は、FMモードキーを押して「MONO」を消します。

FMステレオ放送を受信中は「ST」が表示されます。

- FMステレオ放送局からの電波が弱い場合や受信が弱い場合は、FMモードキーを押して、MONOモードに切り替えてください。受信状態は良くなりますが、音声はモノラルになります。

タイマーを使って再生する (リモコンを使用する)

タイマーの使い方

自動的に電源を入れ (ON) でソースの再生を開始する時間と、スタンバイ状態 (OFF) にする時間を設定し、さらに、タイマー再生で使用するソースおよび音量レベルを設定することができます。一度行った設定は、解除されない限りは、毎日機能します。

準備

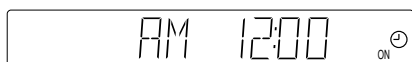
ご注意

タイマーを設定する前に、時計の時刻が正確であることを確認してください。

- タイマー再生に使用するソースを選択します。
- チューナーを選択する場合は、放送バンドおよび放送局も選択します。
- 音量レベルを調整します。

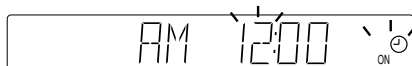
操作

1. SHIFTキーを押しながら7 (タイマー) キーを押す。



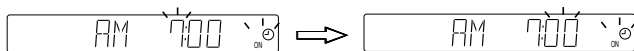
前に設定した電源ON時間が表示されます。

2. 15秒以内に、SHIFTキーを押しながら8 (調整) キーを押す。

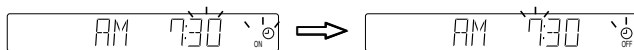


3. チューニングまたは+キーを押して電源ON時間の「時」を設定する。

次にSHIFTキーを押しながら8 (調整) キーを押す。



上記の手順で「分」も設定します。



OFF時間の設定が表示されます。

4. OFF時間を手順3と同様に設定します。「ON」が点滅します。
5. 「ON」が点滅中に、インプットキーを押して使用するソースを選択する。
6. SHIFTキーを押しながら、8 (調整) キーを押す。タイマーがスタンバイ状態になります。「ON」は点灯したままです。
7. STANDBY/ONキーを押して電源をスタンバイ状態にします。
 - 電源をスタンバイ状態にすると表示は消えます。
 - タイマーで再生中に電源をスタンバイ状態にするには、STANDBY/ONキーを押してください。タイマーはスタンバイ状態になります。

タイマー設定を確認する

SHIFTキーを押しながら7 (タイマー) キーを繰り返し押す。タイマー設定が以下の順で表示されます。

On time → Off time → Source

設定を変更するには、SHIFTキーを押しながら7 (タイマー) キーを押して変更したい設定を選択します。次にSHIFTキーを押しながら8 (調整) キーを押して表示を点滅させます。

タイマーを解除するには

電源を入れて、SHIFTキーを押しながら7 (タイマー) キーを押す。次にSHIFTキーを押しながらセット/クリアキーを押す。

ご注意

- タイマーをセット中に、SHIFTキーを押しながらセット/クリアキーを押すと元の表示に戻ります。
- タイマーで再生中に停電が発生した場合は、タイマー状態は解除されません。
- タイマーがスタンバイ中に停電が発生した場合は、タイマーが作動しないことがあります。

スリープタイマーを使用する

設定した時間が経過すると自動的に電源がスタンバイ状態になります。スタンバイ状態になる1分前から、音量が徐々に小さくなります (フェードアウト)。使用できる設定時間は9つあります (90、80、70、60、50、40、30、20、10分間)。

SHIFTキーを押しながら6 (スリープ) キーを繰り返し押して、スタンバイ状態になるまでの時間を設定します。「SLEEP」がディスプレイに表示されます。数秒後に元の表示に戻り、ディスプレイが暗くなります。

スタンバイ状態になるまでの残り時間を確認するには

SHIFTキーを押しながら6 (スリープ) キーを1回押す。数秒後に元の表示に戻ります。

スリープタイマーを操作中に解除するには

SHIFTキーを押しながら、セット/クリアキーを押す。または、電源をスタンバイ状態にしてもスリープタイマーは解除されます。

故障かな？と思ったら

使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や、対処しても正常に作動しない場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

全般

症状	原因	解決方法
電源を入れてもすぐに切れてしまう。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。
	スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路が作動し電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
	本機が落雷や過度の静電気など、外部からの強い電気ショックを受けた。	本機をスタンバイ状態にし、電源コードを抜いて、約30秒経ってから差し込み直して、電源を入れてください。
音が出ない。	接続が不完全。	接続を確認してください。
	再生するソースの選択が適切でない。	インプット (INPUT) キーで正しく選択してください。
	スピーカーの接続が不完全。	スピーカーの接続を確認してください。
	音量が絞られている。	音量を大きくしてください。
	消音されている。	リモコンの消音キーを押して消音を取り消し、音量を調節してください。
	本機で再生できないCD-ROMなどを再生している。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。
外部入力機器からの画像が表示されない。	モニター (テレビ) が本機のビデオモニター出力端子に接続されていない。	モニター (テレビ) を本機のビデオモニター出力端子に接続してください。
音声が突然出なくなる。	スリープタイマーが作動した。	電源を入れて、ソースを再生しなおしてください。
片側チャンネルの音がほとんど出ない。	接続が不完全。	接続を確認してください。
フロントスピーカー以外のスピーカーから音が出ない。	ドルビーサラウンドやドルビーデジタル、DTS信号でエフェクト信号が入っていないソースを再生している。	別の音場プログラムを選択してください。
センタースピーカーから音が出ない。	センタースピーカーの音量レベルが最小まで絞られている。	センタースピーカーの音量レベルを上げてください。
	THEATERまたはHALLモードを選択している。	別のサラウンドモードを選択してください。
	ドルビーデジタルまたはDTSソースにセンターチャンネル信号が含まれていない。	
リアスピーカーから音が出ない。	リアスピーカーの音量レベルが最小まで絞られている。	リアスピーカーの音量レベルを上げてください。
	ドルビーデジタルまたはDTSモードを選択してモノラルソースを再生している。	他のサラウンドモードを選択してください。
スーパーウーファーから音が出ない。	セットメニューの「スピーカー」 - 「サブウーファー」設定を「オフ」にしたまま、ドルビーデジタルやDTSソースを再生している。	「オン」に設定してください。
	ソースにLFEなどの低音信号 (90Hz以下) が含まれていない。	

症状	原因	解決方法
低音の再生不良。	セットメニューの「スピーカー」設定がお使いのスピーカー構成と一致していない。	お使いのスピーカーの大きさをもとに、適切なスピーカー設定にしてください。
ハム音が出る。	ステレオピンケーブルの接続が不完全。	ステレオピンケーブルの接続を確認してください。
音量を上げることができない。または、音が歪んでいる。	本機のビデオ1出力端子に接続している機器の電源が入っていない。	ビデオ1出力端子と接続している機器の電源が切れている場合には、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。接続機器の電源を入れてください。
本機が正常に作動しない。	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によってフリーズしている。	コンセントからAC電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。
デジタル機器や高周波機器から雑音が出る。	本機がデジタル機器または高周波機器に接近しすぎている。	本機をそれらの機器から離して設置してください。
セットメニューなどの設定内容が元に戻っている。	電源コンセントが抜けたままになっていたり、外部タイマーが切れたままになっていた。	電源コンセントが抜けたままになっていたりすると、内蔵メモリーの内容が消えてしまうことがあります。もう1度設定し直してください。

ディスク再生

症状	原因	解決方法
各キー操作ができない。	ディスクによっては、特定の操作を禁止している場合がある。	
【▶】(再生)を押しても、再生が始まらない。(または、すぐに停止する。)	寒いところから急に暖かいところに持ってきて、レンズ部に露が付いた。	1~2時間放置してください。
	再生できないディスクが入っている。	
	ディスクが汚れている。	きれいに拭いてください。
音声/字幕言語が切り替えられない。	複数の言語が入っていないディスクでは切り替えできない。	
	音声/字幕切り替え操作では切り替えできないディスクでも、メニュー画面等で切り替えできる場合がある。	
字幕が出ない。	字幕の入っていないDVDでは字幕が表示されない。	
	字幕が“切”になっている。	字幕を“入”にしてください。
アングルを変えて見ることができない。	複数のアングルが記録されている場面でのみ切り替えることができる。	
ビデオで録画できない。	ほとんどのDVDビデオディスクはコピー禁止処理がされていて、録画できない。	
早送り/早戻しをしたら画像が乱れる。	多少乱れることがあるが、故障ではない。	

症状	原因	解決方法
テレビ（モニター）に映像が映らない。（または画面サイズがおかしい。）	セットメニューの「映像」の「TVアスペクト」が正しく設定されていない。	設定を確認してください。
	テレビ（モニター）画面に“PAL方式のディスクです。音声のみ出力します。”が表示している場合は、PAL方式のDVDオーディオディスクが入っている。（音声のみ再生できます。）	
	テレビ（モニター）がプログレッシブ入力に対応していない。	本機の映像方式選択スイッチを“インターレース強制”に設定し、テレビ（モニター）にインターレース入力してください。
プログレッシブ出力時に映像の一部が二重にぶれて見える。	映像ソフトそのものの編集方法や素材の状態に起因する症状です。（インターレース出力（525i）では問題なく再生できます。）	映像方式選択スイッチを“インターレース強制”に設定し、テレビ（モニター）にインターレース入力してください。
本体ディスプレイに“ No Play ”と表示する。	再生できないディスクが入っている。	
本体ディスプレイに“ No Disc ”と表示する。	ディスクが入っていないか、ディスクが正しく入っていない。	ディスクを正しく入れてください。

FM/AM放送の受信

症状	原因	解決方法
FM/AM プリセット選曲ができない。	プリセット(メモリー)が消えている。	もう一度プリセットしてください。
FM	ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい。	アンテナの接続を確認してください。 FM屋外アンテナを多素子のものに変えてください。 マニュアル選局をしてください。
	FM専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。
	オート選局ができない。	FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力弱い場合に起きる。 マニュアル選局をしてください。 屋外アンテナを多素子のものに変えてみてください。
AM	オート選局ができない。	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。 AMループアンテナの方向を変えてください。 マニュアル選局をしてください。
	「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る。	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。
	「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る（特に夕方に）。	本機の近くでテレビを使用している。 本機からテレビを離してください。

リモコン

症状	原因	解決方法
リモコンで操作できない。	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光窓から6m以内、角度30° 以内の範囲で操作してください。
	本機のリモコン受光窓に直射日光や照明（インバーター蛍光灯など）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。
	乾電池が消耗している。	乾電池を全て交換してください。
	操作する機器が選択されていない。	入力選択キーを押して、操作したい機器を選択してください。

ご注意

• プログレッシブ方式に対応していないテレビをお使いの皆様へ

本機接続端子面に配置されている映像方式選択スイッチを「プログレッシブ選択」に、モニター出力選択スイッチを「コンポーネント」に設定している場合、次のようなことが起こります。

－ ビデオ出力による映像を見ているとき、セットメニューの「画面」設定画面のコンポーネント出力の“プログレッシブ”を選択すると、画面が映らなくなってしまう。

この場合は、映像方式選択スイッチを「インターレース強制」に切り替えて電源を一旦切り、再度電源を入れると画面が映るようになります。

本機は音楽や映画などを再生する目的で設計されており、従って信号発生器やテストディスクの信号などを再生しますと、本機の故障の原因となるばかりではなく、スピーカーをいためる原因となることがあります。

音楽を楽しむエチケット



楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

主な仕様

オーディオ部

実用最大出力(EIAJ)
フロント、センター、リア(1kHz、10%THD、8Ω) 35W
スーパーウーファー(100Hz、10%THD、8Ω) 40W

入力端子

ビデオ1(RCA)
オーディオ アナログ
ビデオ コンポジット
ビデオ2(RCA)
オーディオ アナログ
ビデオ コンポジット

出力端子

ビデオ1(RCA)
オーディオ アナログ
ビデオ コンポジット
D1/D2 DVDのみ
モニター出力
ビデオ コンポジット
Sビデオ DVDのみ
コンポーネント DVDのみ
スピーカー
フロント 8Ω
センター 8Ω
リア 8Ω
スーパーウーファー 8Ω

DVDプレーヤー部

型式 DVDビデオプレーヤー
信号方式 NTSC
レーザー セミコンダクターレーザー波長650/790nm
レーザー出力(連続波の最大値) 1mW(DVD)
0.5mW(CD)
S/N比(IHF-A、入力ショート) 105dB
全高調波歪率 0.003%
ワウ、フラッター 測定検知限以下

チューナー部

FM受信周波数範囲 76.0~90.0MHz(0.1MHzステップ)
AM受信周波数範囲 522~1629kHz(9kHzステップ)

スピーカー

フロント、リア用

型名 NX-S60S
型式 フルレンジ密閉式(5cm×2)、防磁型
インピーダンス 8Ω

センター用

型名 NX-S60C
型式 フルレンジ密閉式(5cm×2)、防磁型
インピーダンス 8Ω

スーパーウーファー用

型名 SW-S60
型式 パッシブ型(16cmウーファー)、防磁型
インピーダンス 8Ω

総合

電源電圧/周波数 100V、50/60Hz
消費電力 170W
待機電力
DVR-S60 1.8W
寸法(幅×高さ×奥行き)
DVR-S60 435×90×381mm
SW-S60 200×351×206mm
NX-S60C 300×72×110mm
NX-S60S 72×164×111mm

質量

DVR-S60 8.0kg
SW-S60 4.8kg
NX-S60C 0.9kg
NX-S60S 1.1kg

仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

保証期間

お買上げ日より1年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご希望により有料にて修理いたします。

修理料金の仕組み

- ・ **技術料**:故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- ・ **部品代**:修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- ・ **出張料**:製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。(品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。)

スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エンジニアの差による音色の違いが出る場合があります。

摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。

摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ
<http://www.yamaha.co.jp/audio/>

ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問合せは

お客様ご相談センター

TEL (0570) 01 - 1808 (ナビダイヤル)
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。

TEL (053) 460 - 3409

FAX (053) 460 - 2777

住所 〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1

ご相談受付時間 10:00~12:00, 13:00~18:00

(日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問合せは (ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL(011)512 - 6108

仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
TEL(022)236 - 0249

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
TEL(03)5762 - 2121

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
TEL(053)465 - 6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL(052)652 - 2230

大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL(06)6877 - 5262

広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14
TEL(082)874 - 3787

四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL(087)822 - 3045

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL(092)472 - 2134

愛情点検



★永年ご使用のAV製品の点検を!

こんな症状はありませんか?

- ・ 電源コード・プラグが異常に熱い。
- ・ コゲくさい臭いがする。
- ・ 電源コードに深いキズか変形がある。
- ・ 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- ・ 電源を入れても正常に作動しない。
- ・ その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

